



PUBLIC (公開)

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite

ドキュメントバージョン: 4.3 Support Package 4 – 2023-12-07

サポートパッケージアップデートガイド

目次

1	ドキュメント履歴.....	4
2	はじめに.....	5
2.1	このドキュメントについて.....	5
	制約.....	5
	変数.....	5
	用語.....	6
3	計画.....	8
3.1	アップデートパッケージのダウンロード.....	8
3.2	プラットフォームのサポート.....	9
3.3	前提条件.....	9
3.4	制限事項.....	11
3.5	インストールされているバージョンの確認.....	12
4	インストールシナリオ.....	13
4.1	複数の SAP BusinessObjects 製品を含むシステムへのアップデートの適用.....	13
4.2	Web アプリケーションの更新.....	13
4.3	web.xml ファイルの変更の保存.....	13
4.4	並列更新.....	14
4.5	ONE Installer を使用する.....	15
5	Windows でのアップデートインストール.....	16
5.1	Windows に BI プラットフォームサーバのアップデートをインストールする.....	17
5.2	Windows でクライアント製品アップデートをインストールする.....	18
5.3	Windows でのサイレントインストール.....	19
	Windows で応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行する.....	19
5.4	段階的インストールを実行する.....	20
	コマンドプロンプトからアップデートインストールのフェーズ別インストールを実行する.....	21
	ユーザインタフェースからアップデートインストールのフェーズ別インストールを実行する.....	23
5.5	Windows でアップデートをアンインストールする.....	24
6	UNIX でのアップデートインストール.....	26
6.1	UNIX に BI プラットフォームサーバのアップデートをインストールする.....	26
6.2	UNIX でのサイレントインストール.....	28
	UNIX で応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行する.....	28
6.3	段階的インストールを実行する.....	30

	ユーザインタフェースからアップデートインストールのフェーズ別インストールを実行する	30
	コマンドプロンプトからアップデートインストールのフェーズ別インストールを実行する	32
6.4	UNIX でアップデートをアンインストールする	34
7	Sybase SQL Anywhere への移行	36
7.1	Microsoft SQL Server 2008 Express から	37
	4.3 インストールを変更し、SQL Anywhere を追加する (Windows)	37
	CMS データを SQL Anywhere にコピーする (Windows)	38
	Microsoft SQL Server 2008 Express を削除する	41
7.2	IBM DB2 Workgroup Edition から	41
	4.3 インストールを変更し、SQL Anywhere を追加する (UNIX)	41
	CMS データを SQL Anywhere にコピーする (UNIX)	42
	IBM DB2 Workgroup Edition を削除する	44

1 ドキュメント履歴

以下の表は、重要なドキュメント変更の概要です。

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3	2020 年 6 月	初期リリース

① 注記

並列更新の節で説明されているとおり、並列に更新をインストールする場合は分散デプロイメントの更新が高速で行われます。

2 はじめに

2.1 このドキュメントについて

このドキュメントは、SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 製品のインストール、およびメンテナンスを行うシステム管理者または IT プロフェッショナルを対象にしています。

アップデートに関する適切なガイドの選択

アップデートのタイプ	SAP Help Portal に用意されているガイド
最新のマイナーリリースによる BI Suite のアップデート (4.3 SP1 の 4.0、4.1、4.2、または 4.3 リリースへのインストールなど)。 (フルビルドとアップデートビルドの両方として提供されます)。	BI プラットフォームマイナーリリースアップデートガイド
新しいサポートパッケージによる現在のインストールの更新 (フルビルドとアップデートビルドの両方として提供されます)。	サポートパッケージアップデートガイド
利用可能な最新パッチによる BI プラットフォームの 4.2 SPxx ('xx' は最新) または 4.3 バージョンの更新 (アップデートビルドとしてのみ提供されます)。	パッチアップデートガイド
BI 4.2 SP06 Patch100 以上のパッチには、新規インストールでもアップデートインストールでも、ONE Installer パッケージを使用してください。	

2.1.1 制約

このガイドでは、ホスト オペレーティング システムのセットアップ方法、サポートされているデータベース、Web アプリケーション サーバー、または Web サーバについて説明していません。専用のデータベース、Web アプリケーションサーバ、または Web サーバを使用する場合、BI プラットフォームをインストールする前にこれをインストールし機能させておく必要があります。これらのコンポーネントのインストールとアップグレードの詳細については、各コンポーネントのマニュアルを参照してください。

2.1.2 変数

以下の変数は、このマニュアル全体を通して使用しています。

変数	説明
<INSTALLDIR>	BI Suite のインストールディレクトリ。 Windows マシンの場合、デフォルトのディレクトリは C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\ です。

2.1.3 用語

BI プラットフォームのドキュメントでは、次の用語が使用されます。

用語	定義
アドオン製品	BI プラットフォームで動作する一方、独自のインストールプログラムがある製品です。
監査データストア (ADS)	監査データを保存するために使用されるデータベースです。
BI プラットフォーム	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームの略語です。
バンドルされたデータベース、バンドルされた Web アプリケーションサーバ	BI プラットフォームに同梱されているデータベースまたは Web アプリケーションサーバのことです。
クラスタ (名詞)	1 つの CMS データベースを使用し、同時に動作する 2 つ以上の Central Management Server (CMS) です。
クラスタ化する (動詞)	クラスタを作成することです。 <ol style="list-style-type: none"> マシン A に CMS および CMS データベースをインストールします。 マシン B に CMS をインストールします。 マシン B の CMS がマシン A の CMS データベースを使用するように指定します。
クラスタキー	CMS データベースでキーを解読するのに使用されます。 CCM を使用してクラスタキーを変更できますが、パスワードのようにキーをリセットすることはできません。暗号化されたコンテンツが含まれており、紛失しないようにすることが重要です。
CMS	Central Management Server の略語です。
CMS データベース	BI プラットフォームに関する情報を保存するために CMS で使用されるデータベースです。

用語	定義
デプロイメント	1つ以上のマシンにおいてインストール、設定、実行されている BI プラットフォームソフトウェアのことです。
インストール	インストールプログラムによって1つのマシン上に作成される BI プラットフォームファイルのインスタンスです。
マシン	BI プラットフォームソフトウェアがインストールされるコンピュータです。
メジャーリリース	ソフトウェアのフルリリースです。
マイナーリリース	ソフトウェアの一部のコンポーネントのリリースです。
ノード	同じマシンで実行され、同じ Server Intelligence Agent (SIA) で管理される BI プラットフォームサーバのグループです。
パッチ	特定のサポートパッケージバージョンの小規模な更新です。
昇格	BI コンテンツを同じメジャーリリース (4.3 から 4.3 など) のデプロイメント間で、プロモーションマネジメントアプリケーションを使用して移行するプロセスです。
サーバ	BI プラットフォームのプロセスの1つです。サーバは、1つ以上のサービスをホストします。
Server Intelligence Agent(SIA)	サーバの停止、起動、起動など、サーバのグループを管理するプロセスです。
サポートパッケージ	マイナーリリースまたはメジャーリリースに対するソフトウェアの更新です。
Web アプリケーションサーバ	動的コンテンツを処理するサーバです。
アップグレード	移行プロセスを完了するために必要な計画、準備、移行、後処理のことです。
ONE Installer	ONE Installer は、サービスパッケージまたはパッチのフレッシュインストール、パッチからパッチへの更新、サービスパッケージからパッチへの更新などの複数の BI インストールシナリオをサポートする単一のインストールパッケージです。

3 計画

3.1 アップデートパッケージのダウンロード

個別のフルインストールプログラムを持つ各 BI Suite 製品では、個別のアップデートパッケージを使用できます。以下の手順の表を参照して、ご使用の製品向けの適切なパッケージを特定してください。

1. <https://support.sap.com/home.html> > [ソフトウェアダウンロード] に移動します。
2. [サポートパッケージおよびパッチ] タブをクリックします。
3. [サポートパッケージおよびパッチ] タブで、[アルファベット順の索引 (A-Z)] を選択します。
4. 以下のように、製品にナビゲートします。

アップデートパッケージ	パス
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームサーバ [1]	▶ B ▶ SBOP BI platform (former SBOP Enterprise) ▶ SBOP BI PLATFORM (ENTERPRISE) ▶ SBOP BI PLATFORM 4.3 ▶ SBOP BI PLATFORM SERVERS 4.3 ▶
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームクライアントツール [1] [2]	▶ B ▶ SBOP BI platform (former SBOP Enterprise) ▶ SBOP BI PLATFORM (ENTERPRISE) ▶ SBOP BI PLATFORM 4.3 ▶ SBOP BI PLATFORM CLIENTS 4.3 ▶
SAP Crystal Reports 2020	▶ C ▶ CRYSTAL REPORTS ▶ SAP CRYSTAL REPORTS 2020 ▶ SAP CRYSTAL REPORTS 2020 ▶ [1]
SAP Crystal Reports for Enterprise	▶ B ▶ SBOP BI platform (former SBOP Enterprise) ▶ SBOP BI PLATFORM (ENTERPRISE) ▶ SBOP BI PLATFORM 4.3 ▶ CR FOR ENTERPRISE 4.3 ▶
SAP BusinessObjects Live Office	▶ B ▶ SBOP BI platform (former SBOP Enterprise) ▶ SBOP BI PLATFORM (ENTERPRISE) ▶ SBOP BI PLATFORM 4.3 ▶ SBOP LIVE OFFICE 4.3 ▶

- [1] SAP BusinessObjects Edge Business Intelligence もこのアップデートパッケージの対象です。
- [2] 次のようなクライアントツールがあります。
 - Web Intelligence リッチ クライアント
 - ビジネスビューマネージャ
 - ユニバースデザインツール
 - インフォメーションデザインツール
 - トランスレーションマネジメントツール
 - データフェデレーション管理ツール
 - 開発者用コンポーネント:
 - SAP BusinessObjects BI プラットフォーム Java SDK
 - SAP BusinessObjects BI プラットフォーム Web サービス SDK

- SAP BusinessObjects BI プラットフォーム .NET SDK
- SAP Crystal Reports Java SDK
- SAP BusinessObjects セマンティックレイヤ Java SDK

5. プラットフォームを選択します。

6. アップデートパッケージを選択し、Web サイトの説明に従ってパッケージをダウンロードおよび抽出します。

サポートパッケージのバージョンは、[タイトル] 列に一覧表示されます。

ソフトウェアのダウンロードには時間がかかることがあります。システム管理者に連絡して、会社のファイアウォールがダウンロード処理を終了しないようにする必要があります。

① 注記

上記のナビゲーションで、ONE Installer パッケージがアップロードされます。ONE Installer は新規インストールとアップデートインストールの両方に使用することができます。詳細については、この SAP ノート [2671301](#) を参照してください。

3.2 プラットフォームのサポート

次の表に、各アップデートパッケージがサポートするプラットフォームを示します。

アップデートパッケージ	Windows	AIX	Solaris	Linux
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームサーバ	✓	✓	✓	✓
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームクライアントツール	✓			
SAP Crystal Reports 2020	✓			
SAP Crystal Reports for Enterprise	✓			
SAP BusinessObjects Live Office	✓			

3.3 前提条件

アップデートをシステムに適用する前に、次の計画手順を実行することをお勧めします。

- 4.0、4.1、または 4.2 デプロイメントから 4.3 または 4.3 SP1 デプロイメントに更新する場合は、CMS データベースをバックアップすることをお勧めします。4.3 アップデートをアンインストールしても、以前のデータ

ベースは復元されません。手動で復元する必要があります。SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

- 4.3 を 4.2 SP3 以下のバージョンに対するアップデートとしてインストールする場合、4.1 と 4.0 をすべて含めるには、4.3 バージョンに更新する前に、まず 4.2 SP4 以上のバージョンに環境を更新する必要があります。
ここでは、4.2 SP7 または 4.2 SP8 が推奨されます (ONE Installer を使用)。
- 既存の BI Suite デプロイメントをバックアップします。デプロイメントのバックアップの詳細については、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

① 注記

BI プラットフォーム CMS に IBM DB2 を使用している場合は、4.3 アップデートインストールプログラムを実行する前に、CMS システムデータベースのバックアップをとることをお勧めします。CMS データベースの破損を回避するために、アップデートインストール処理中は CMS データベースを起動して実行中にし、アップデートプロセスが中断しないようにしてください。

- インストールしたアドオン製品を含む BI Suite デプロイメントのすべての要素に、更新後の BI プラットフォームのバージョンとの互換性があることを確認してください。この情報は、製品出荷マトリックス (<https://support.sap.com/release-upgrade-maintenance/pam.html>) で確認できます。
- リリースの制約ドキュメントを参照して、リリースの重要な問題、制限事項、および回避策を確認します。
- 解決済み問題ドキュメントを参照して、アップデートで修正された不具合が自分のデプロイメントに関係があるかどうかを確認します。
- [制限事項 \[11 ページ\]](#)を確認してください。
- SAP BW デザインタイムの機能強化を有効化するには、Business Intelligence プラットフォームインストールガイドの SAP Support for BW を参照してください。
- 更新が必要なすべての SAP BusinessObjects 製品とコンポーネントを特定します。
独自のインストールプログラムを持つ各製品にアップデートが用意されています。[アップデートパッケージのダウンロード \[8 ページ\]](#)を参照して、必要なアップデートを確認します。
 - Windows では、インストール済みのアップデートは Windows の [プログラムの追加と削除](#)の一覧で確認することができます。
 - Unix では、インストール済みのアップデートは、<INSTALLDIR>/modifyOrRemoveProduct.sh を実行することで確認できます。
- このガイドの「インストールシナリオ」の節を確認します。
- Windows と UNIX の両方で、BI スイートパッケージの更新シナリオ用に、前提条件画面で新しいチェックボックスが追加されました。SAP Knowledge Base Article (KBA) [1794601](#) をレビューし、アップデートの続行に同意するよう求める警告メッセージが表示されます。

① 注記

Windows - このチェックボックスが選択されている場合のみ、アップデートのインストールを続行することができます。

UNIX - 上記の KBA を読み、レビューした後、<Enter> キーを押します。

① 注記

サポートパッケージのアップデートを基本インストールに適用するために不可欠な推奨事項、注意、およびトラブルシューティング情報を見落とすことがないように、以下の SAP ノートを参照してください。

- [2645113](#) - BI 4.2 SP06 のパッチアップデート時に 1 次キーが確実に追加されるための CMS テーブル CMS_RELATIONS7 からの重複レコードの削除 (Delete duplicate records from CMS table CMS_RELATIONS7 to ensure primary keys are added during patch update of BI 4.2 SP06)
- [2646873](#) - Oracle and Sybase ASE 向けの 4.2 SP6 のインストール時における 1 次キーの CMS テーブル (CMS_InfoObjects7, CMS_Sessions7, CMS_LOCKS7, CMS_RELATIONS7) への追加 (Adding primary key to CMS tables (CMS_InfoObjects7, CMS_Sessions7, CMS_LOCKS7, CMS_RELATIONS7) during 4.2 SP6 installation for Oracle and Sybase ASE)
- [2451830](#) - SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.2 SP04 のインストールまたは SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.2 SP04 へのアップデートを成功させるために必要な Windows のアップデート (Windows Updates needed for Successful Installation of / Update to SAP BusinessObjects BI Platform 4.2 SP04)
- [2467541](#) - SAP BusinessObjects BI 4.2 SP04 およびパッチ 1 リリース向けにサポートされる BI プラットフォームアドオンバージョンの情報 (Supported BI Platform Add-On versions information for the SAP BusinessObjects BI 4.2 SP04 and patch 1 release)
- [2477140](#) - アサーションの失敗 - BI アドオンのインストールにおける Visual C++ ランタイムライブラリのエラー (Assertion failed - Visual C++ Runtime Library error on installation of BI Add-ons)
- [1676695](#) - アサーションの失敗 - SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのランタイムのインストール時に shared_ptr.hpp の例外が発生しました。解決策が推奨されるかどうかは不明です。 (Assertion Failed Exception for shared_ptr.hpp when installing runtimes for SAP BusinessObjects Business Intelligence Platform)
- [2501036](#) - SQLAnywhere のインストールで RHEL 7.3 の SAP BusinessObjects 4.2 SP4 がハングしました。 (SAP BusinessObjects 4.2 SP4 on RHEL 7.3 hangs at Installing SQLAnywhere)
- [2671301](#) - ONE Installer とは何か、どこで見つかるのか
- [1794601](#) - BI 4.x での計画更新の推奨/サポートの確認 [方法]
- インストール/更新アクティビティを開始する前に、以下のナレッジベース記事を参照して、ベストプラクティスおよび前提条件を見逃さないようにしてください。
 - KBA [1952120](#): BI のインストール/更新/パッチ適用時の Windows でのベストプラクティスおよび前提条件
 - KBA [2490588](#): BI のインストール/更新/パッチ適用時の Linux でのベストプラクティスおよび前提条件

3.4 制限事項

アップデートのインストールには、次の制限事項が適用されます。

- アップデートは製品全体のインストールではなくメンテナンスのインストールです。アップデートをインストールするには、SAP BusinessObjects 製品がインストールされている必要があります。新しいインストールと更新インストールの両方に対して、ONE Installer パッケージを使用します。
- アップデート全体をインストールする必要があります。アップデートの一部をインストールすることはできません。
- アップデートは、すでにインストールされている機能のみを更新します。例:
 - たとえば、更新するフルインストールがカスタムインストールである場合、アップデートをインストールすると、最初にインストールされたファイルのサブセットのみが更新されます。
 - リリースで新しい機能が導入された場合、それらはアップデートインストールプログラムによってはインストールされません。新しい機能を取り入れるには、インストールを変更する必要があります。インスト

ールの変更方法については、*Business Intelligence Platform* インストールガイドで、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォームを変更するを参照してください。

- アップデートにより、すでにインストールされている言語パックのみに修正が適用されます。アップデートで導入された言語をインストールする場合は、フルインストールを実行する必要があります。
BI プラットフォームのアップデート後に基本インストールを変更する代わりに、新しく導入された言語を BI プラットフォームのアップデート時にインストールすることができます。
- SAP BusinessObjects Suite デプロイメントのすべての製品を同じメンテナンスレベルにする必要があります。
 - デプロイメントの SAP BusinessObjects 製品の 1 つを更新する場合は、他のすべての製品も更新する必要があります。
 - デプロイメントの 1 つの SAP BusinessObjects 製品のアップデートをアンインストールする場合は、すべての製品の同じアップデートをアンインストールする必要があります。
 - 新しい SAP BusinessObjects 製品をインストールする場合は、デプロイメント内の他のすべての製品と同じバージョンになるまで、新しい製品にすべてのアップデートを適用してください。
- アップデートインストールプログラムでは、バンドルされている Tomcat Web アプリケーションサーバに BI プラットフォーム Web アプリケーションを自動的に再デプロイできます。異なる Web アプリケーションサーバを使用している場合、アップデートのインストール後に WDeploy を使用して BI プラットフォーム Web アプリケーションを再デプロイする必要があります。
詳細については、[Web アプリケーションの更新 \[13 ページ\]](#)を参照してください。
- ユーザが使用して実行する同じインストールプログラムを使用して、応答ファイルを作成する必要があります。旧リリースまたはフルインストールとアップデートインストール間の応答ファイルを再利用することはできません。
詳細については、[Windows で応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行する \[19 ページ\]](#)または [UNIX で応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行する \[28 ページ\]](#)を参照してください。
- このインストールプログラムでは、SAP BusinessObjects Design Studio BI プラットフォームアドオンは更新されません。4.0、4.1、または 4.2 リリースを 4.3 リリースに更新する場合、Design Studio は動作しません。SAP ノート 1760372 <http://service.sap.com/notes> で説明されているように、Design Studio BI プラットフォームアドオンをインストールする必要があります。

3.5 インストールされているバージョンの確認

次のいずれかの方法を使用して、インストールした BI プラットフォームのバージョンをチェックします。

- Windows デプロイメントの場合、プログラムの追加と削除 (ARP) を使用します
- Unix または Linux デプロイメントの場合、`modifyOrRemoveProducts.sh` を実行します。

BI 製品およびクライアントツール

▶ [ヘルプ](#) ▶ [バージョン情報](#) ▶ メニューから、BI プラットフォームクライアントツールおよび SAP Crystal Reports といった他の SAP BusinessObjects BI 製品の最新のバージョン情報を確認できます。

4 インストールシナリオ

4.1 複数の SAP BusinessObjects 製品を含むシステムへのアップデートの適用

製品は相互に依存するため、すべての SAP BusinessObjects 製品を同じメンテナンス レベルにする必要があります。たとえば、SAP BusinessObjects Live Office および BI プラットフォームもインストールされているデプロイメントの SAP Crystal Reports にアップデートを適用する場合は、これらの 3 製品すべての 3 つのアップデートすべてを個別に適用して、すべての製品が同じメンテナンスレベルで実行されるようにする必要があります。

4.2 Web アプリケーションの更新

BI プラットフォーム Web アプリケーションを更新する方法は、使用している Web アプリケーションサーバの種類により異なります。

- バンドルされた Tomcat Web アプリケーションサーバを使用している場合、アップデートインストールプログラムを使用して BI プラットフォーム WAR ファイルが自動的に更新されます。追加の手順は必要ありません。
- バンドルされた Tomcat Web アプリケーションサーバを使用していない場合、アップデートインストールプログラムを使用して新規 WAR ファイルを <INSTALLDIR>/enterprise_xi40/warfiles/webapps) にインストールし、WDeploy を使用して WAR ファイルを Web アプリケーションサーバにデプロイします。複数のアップデートをインストールする場合は、最初にすべてのアップデートをインストールしてから、1度で再デプロイできる WAR ファイルの最終セットを最後に取得します。WDeploy の使用に関する説明については、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Web アプリケーションデプロイメントガイドを参照してください。

→ 注意

デプロイメント内のすべての BI プラットフォーム WAR ファイルを更新する必要があります。Web アプリケーションを含むすべての BI Suite コンポーネントを同じバージョンにする必要があります。

4.3 web.xml ファイルの変更の保存

アップデートをインストールすると、Web アプリケーションサーバにデプロイされた Web アプリケーションの web.xml ファイルが上書きされます。つまり、Web アプリケーションサーバ上の web.xml ファイルを変更することによって実行したカスタマイズが、アップデートの適用後に消失します。

Web アプリケーションの `web.xml` ファイルを変更し、その変更を保持するには、BI プラットフォームインストールディレクトリで変更を行う必要があります。BI プラットフォームのインストールディレクトリ内の設定ファイルに加えられた変更は、パッチの際も保持されます。

Windows システムで、このディレクトリは、

```
<INSTALLDIR>%SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0%\warfiles\webapps
```

です。

UNIX システムで、このディレクトリは、

```
<INSTALLDIR>/sap_bobj/enterprise_xi40/warfiles/webapps
```

です。

アップデートの適用後、影響のある `.war` ファイルを再ビルドし、`.war` ファイルを Web アプリケーションサーバに再デプロイします。

4.4 並列更新

並列更新機能は 4.0 SP5 から導入されました。この機能によって複数のマシンで同時にアップデートインストールを実行できるようになり、分散デプロイメントの更新に必要な時間が大幅に短縮されます。1 度に 1 つのマシンのみを更新する必要はなくなります。

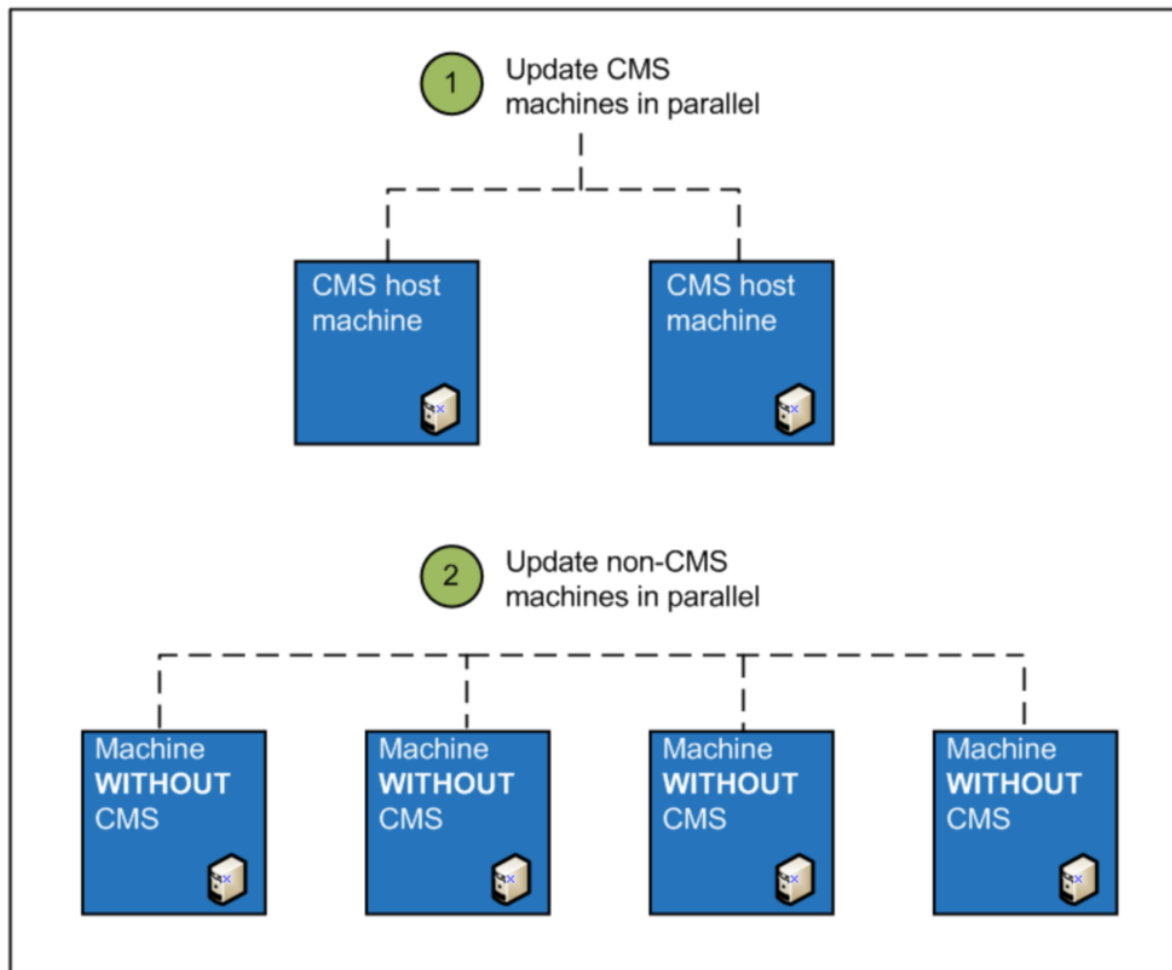
分散デプロイメントの並列更新を実行するには、次の順序でアップデートをインストールします。

- すべての CMS ホストマシンでアップデートインストールプログラムを (同時に) 並列実行します。
 - 次のステップに進む前に、すべてのマシンの更新が終わるまで待機します。
 - CMS マシンを再起動する前に、すべての CMS マシンでアップデートインストールの実行が終了するまで待機します。アップデートインストールプログラムによって再起動を要求されても、すべての CMS マシンで更新が終了するまではマシンを再起動しないでください。
- 非 CMS マシンの更新を開始する前に、少なくとも 1 台の CMS マシンが実行され、利用できることを確認してください。
- すべての非 CMS マシンでアップデートインストールを並列実行します。
 - CMS へのログオンを要求されたら、ステップ 2 の CMS マシンを使用します。
 - 次のステップに進む前に、すべてのマシンの更新が終わるまで待機します。
- すべての非 CMS マシンでアップデートのインストールが終了したら、すべての CMS マシンを再起動します。

この手順をデプロイメントのすべての製品に対して繰り返してください。これには、BI プラットフォーム、Explorer、クライアントツールなどが含まれます。製品が非 CMS マシンのみにインストールされている場合は、ステップ 1 と 2 をスキップできます。

① 注記

- 更新中の非 CMS マシンに対し、少なくとも 1 つの CMS マシンを利用できる必要があります。
- 更新の開始時に稼働しているすべての CMS マシン、および更新中に起動した追加の CMS マシンを、更新の開始から終了まで利用できる必要があります。
- 更新の実行中に CMS マシンが再起動される可能性がある追加のインストール、保守、またはサーバ管理ワークフローは、実行しないでください。



4.5 ONE Installer を使用する

ONE Installer は、サービスパッケージまたはパッチのフレッシュインストール、パッチからパッチへの更新、サービスパッケージからパッチへの更新などの複数の BI インストールシナリオをサポートする単一のインストールパッケージです。

SAP BusinessObjects BI プラットフォームを使用していない場合は、BI リリースの最新の利用可能なサポートパッケージまたはパッチバージョンのフレッシュインストールに ONE Installer パッケージを使用できます。

ONE Installer の詳細については、*Business Intelligence Platform インストールガイド (UNIX 版)* と *Business Intelligence Platform インストールガイド (Windows 版)* を参照してください。

5 Windows でのアップデートインストール

アップデートのインストールを実行するには、Windows マシンの管理者権限が必要です。

① 注記

ベストプラクティスとして、インストールまたはアンインストールアクティビティを開始する前に、CMS データベースおよびファイルリポジトリシステムをバックアップする必要があります。BI プラットフォームのバックアップと復元の詳細については、*Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドのバックアップと復元の概要を参照してください。

このアップデートをインストールしているマシンのリソースを解放するには、アップデートをインストールする前に、セントラル管理コンソール (CMC) を使用して、マシン上のすべての BI プラットフォームサーバを停止します。ただし、以下を除きます。

- Server Intelligence Agent (SIA)
- Central Management Server (CMS)
- Input/Output File Repository Server (FRS)
- CMS システム データベース

これらのサービスおよびサーバーはインストールを続けるために動作し続ける必要があります。

① 注記

この章の関連トピックとして、Windows アップデートインストールの前提条件とベストプラクティスに関する SAP ノートを参照してください。

サーバコンポーネントを含む製品を更新する場合は、CMS ログオン認証情報を入力する必要があります。これは、サーバー プロパティのローカライズされた文字列など、CMS データベースに格納されているコンテンツを更新するために必要です。

① 注記

Secure Sockets Layer (SSL) が有効化されている場合は、インストールを続行できません。アップデートをインストールするマシンで、SSL が有効化されている場合は、インストールを行う前に SSL をオフにする必要があります。インストールの完了後に、SSL をオンに戻します。

関連情報

[前提条件 \[9 ページ\]](#)

5.1 Windows に BI プラットフォームサーバのアップデートをインストールする

1. インストールを開始するには、`setup.exe` を右クリックして **[管理者として実行]** を選択します。
インストールプログラムによって、BI プラットフォームアップデートをマシンにインストールできるようにする前提条件チェックが開始されます。
2. **[前提条件のチェック]** ウィンドウで、前提条件チェックの結果を確認します。インストールを続行する場合は、**[次へ]** を選択します。
3. **インストールウィザード** ウィンドウで、表示された指示を確認し、**Enter** キーを押します。
4. **[使用許諾契約]** ウィンドウで、エンドユーザ使用許諾契約の内容を確認して、使用許諾契約に同意し、**[次へ]** をクリックします。
5. **[新しいライセンスキー要件]** ウィンドウで、新しいライセンス要件の内容を確認して、チェックボックスを選択し、**[次へ]** を選択します。

新しいライセンスキーの申請方法の詳細については、<http://scn.sap.com/docs/DOC-70095> にアクセスしてください。

システムを SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 アップデートに更新したら、セントラル管理コンソールにログオンして、古いライセンスキーを削除し、新しいライセンスキーを追加する必要があります。または、スクリプトを実行して、ライセンスキーを削除することができます。スクリプトによるキーの削除の詳細については、SAP ノート [2276413](#) を参照してください。

① 注記

セントラル管理コンソールに新しいライセンスキーを追加するまで、特定のサーバは無効になっています。

詳細については、**Business Intelligence** プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

6. **[言語パッケージの選択]** ウィンドウで、インストールする追加言語を一覧から選択し、**[次へ]** を選択します。
オペレーティングシステムで現在使用されている言語が自動的に選択されます。指定の言語で問題が検知された場合、BI プラットフォームでは英語が使用されるため、英語言語サポートを選択解除することはできません。

① 注記

[言語パッケージの選択] ウィンドウでは、以前にインストールした言語パックのチェックボックスがデフォルトで選択されています。チェックボックスを選択して、言語パックを追加または削除することができます。

7. アップデートにサーバコンポーネントが含まれている場合は、**[既存の CMS デプロイメント情報]** ウィンドウが表示されます。使用しているデプロイメントの CMS のホスト名、ポート番号、および管理者のパスワードを入力し、**[次へ]** をクリックします。
8. **インストールモードの選択** ウィンドウで、**[標準インストール]** ラジオボタンを選択します。
9. **Web アプリケーションデプロイメント** ウィンドウで、適切な Web アプリケーションデプロイメントのラジオボタンを選択します。

① 注記

基本インストールにデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバが存在する場合、Business Intelligence プラットフォームインストーラに [\[Web アプリケーションデプロイメント\]](#) ウィンドウが表示されます。存在しない場合は、[\[Web アプリケーションデプロイメント\]](#) ウィンドウは表示されません。

- [\[Web アプリケーションを今すぐデプロイします。\]](#) ラジオボタンを選択すると、デフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツがデプロイされます。
 - [\[Web アプリケーションを後でデプロイします。\]](#) ラジオボタンを選択すると、デフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツはデプロイされません。
 - BI プラットフォームおよびその他のアドオン製品をインストールする場合は、[\[Web アプリケーションを後でデプロイします。\]](#) ラジオボタンを選択することをお奨めします。ご使用のシステムに最新のアドオン製品をインストールする場合は、[\[Web アプリケーションを今すぐデプロイします。\]](#) ラジオボタンを選択してください。これを選択すると、システムダウンタイムが全体的に短縮されます。
10. [\[インストールの開始\]](#) ウィンドウで [\[次へ\]](#) を選択してインストールを開始します。
アップデートインストールが開始されます。インストールが完了すると、完了画面が表示されます。この画面には、インストール後の指示が含まれています。

① 注記

アップデートの一部として Web アプリケーションが更新される場合は、元の BI プラットフォームのインストール時に選択したオプションに応じて、インストール後のダイアログボックスに .war ファイルを再デプロイする手順が表示される場合があります。

11. [\[完了\]](#) を選択します。

5.2 Windows でクライアント製品アップデートをインストールする

この手順は、Windows 上で動作する BI プラットフォームクライアントツールのアップデートのインストールに使用されます。

⚠ 警告

クライアントツールの更新によって、InformationDesignTool.ini および TransMgr.ini ファイルが上書きされます。これらの .ini ファイルをカスタマイズしている場合は、インストールの開始前にほかのディレクトリにコピーを保存しておくことをお勧めします。

1. setup.exe を実行してインストールを開始します。
2. [\[次へ\]](#) をクリックします。
3. [\[ようこそ\]](#) ダイアログボックスで、[\[次へ\]](#) をクリックして進みます。
4. [\[使用権許諾契約\]](#) ダイアログボックスで、エンドユーザ使用許諾契約の内容を確認し、契約書の内容に同意する場合は、[\[次へ\]](#) をクリックして進みます。
アップデートにサーバコンポーネントが含まれている場合は、[\[CMS\]](#) ダイアログボックスが表示されます。
5. 使用しているデプロイメントの CMS のホスト名、ポート番号、および管理者のパスワードを入力し、[\[次へ\]](#) をクリックして先に進みます。

6. [\[インストールの開始\]](#) ダイアログボックスで、[\[次へ\]](#) をクリックしてインストールを開始します。
更新がインストールされます。インストールが完了すると、完了画面が表示されます。この画面には、インストール後の指示が含まれている場合があります。
7. [完了](#) をクリックします。

5.3 Windows でのサイレントインストール

5.3.1 Windows で応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行する

更新は、応答ファイルを使用してサイレントインストールできます。

サイレントインストールは、特に、複数のインストールをすばやく実行したりインストールを自動化したりする場合に便利です。

応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行するには、まずセットアッププログラムを使用して .ini ファイルを作成する必要があります。 .ini ファイルを作成したら、.ini ファイルのパスを指定して setup.exe コマンドを実行することにより、サイレントインストールを実行できます。

① 注記

応答ファイルを使用してサイレントインストールを実行している場合、対象となるアップデートまたはパッチのインストールパッケージから setup.exe ファイルを使用して応答ファイルを作成する必要があります。応答ファイルは、リフレッシュインストール、アップデートインストール、またはパッチインストールの間で共有することはできません。

1. インストール .ini ファイル (応答ファイル) を作成します。
 - a. コマンドラインコンソールを開きます。
 - b. SAP BusinessObjects の setup.exe ファイルが保存されているディレクトリから、書き込みオプション (-w) を指定して setup.exe コマンドを実行します。

```
setup.exe -w <responsefilepath%filename.ini>
```

<filename.ini> は、応答ファイルに付ける名前です。 <responsefilepath> は、作成した応答ファイルを保存する場所です。

② 注記

ファイルパスが指定されていない場合、ファイルは setup.exe が実行されたディレクトリに保存されます。インストールプログラムには、このディレクトリに対する書き込み権限が必要です。

- c. [Enter](#) キーを押して、インストールプログラムを起動します。
- d. 画面の指示に従って、[\[インストールの開始\]](#) ダイアログボックスに達するまで、インストール設定を入力します。
- e. [\[次へ\]](#) をクリックします。
インストールプログラムは自動的に終了します。インストールのすべてのパラメータ (ユーザ定義のパラメータとデフォルトパラメータ) は、指定したディレクトリに保存される .ini ファイルに記録されます。

① 注記

GUI インストールプログラムで応答ファイルを作成する場合、GUI を介して入力したライセンスキーおよびすべてのパスワードはプレーンテキスト形式の応答ファイルには書き込まれません。サイレントインストールを実行する前に、アスタリスク (*****) の部分を実際のパスワードに置き換える必要があります。

2. 応答ファイルを編集し、適切なパスワードによってアスタリスクを置換します。
3. 以下のコマンドを使用して、.ini ファイルを使用するサイレントインストールを実行します。

```
setup.exe -r <responsefilepath¥filename.ini>.ini
```

インストールログファイルは、<INSTALLDIR>¥InstallData¥logs¥<DATEandTIME>¥ に保存されます。

① 注記

新しいライセンスキーの申請方法の詳細については、<http://scn.sap.com/docs/DOC-70095> にアクセスしてください。

システムを SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 アップデートにアップデートしたら、セントラル管理コンソールにログオンして、新しいライセンスキーを追加する必要があります。

セントラル管理コンソールに新しいライセンスキーを追加するまで、特定のサーバは無効な状態です。

詳細については、**Business Intelligence** プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

① 注記

- [Web アプリケーションデプロイメント](#) ウィンドウで、適切な Web アプリケーションデプロイメントのラジオボタンを選択します。
- 基本インストールにデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバが存在する場合、Business Intelligence プラットフォームインストーラに [Web アプリケーションデプロイメント] ウィンドウが表示されます。存在しない場合は、[Web アプリケーションデプロイメント] ウィンドウは表示されません。
 - [Web アプリケーションを今すぐデプロイする] ラジオボタンを選択すると、デフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツがデプロイされます。
 - [Web アプリケーションを後でデプロイする] ラジオボタンを選択すると、デフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツはデプロイされません。
 - BI プラットフォームおよびその他のクライアント製品をインストールする場合は、[Web アプリケーションを後でデプロイする] ラジオボタンを選択することをお奨めします。ご使用のシステムに最後のクライアント製品をインストールする場合は、[Web アプリケーションを今すぐデプロイする] ラジオボタンを選択してください。これを選択すると、システムダウンタイムが全体的に短縮されます。

5.4 段階的インストールを実行する

インストールは 2 段階 (キャッシュとキャッシュ後のインストール) で実行されます。

- キャッシュは、ソフトウェアをインストールディレクトリにコピーするプロセスです。
- キャッシュ後のインストールは、実際のインストールプロセスです。

5.4.1 コマンドプロンプトからアップデートインストールのフェーズ別インストールを実行する

パッチアップデートのフェーズ別インストールを実行するには、以下の手順に従います。

1. コマンドプロンプトを開きます。
2. ソフトウェアをダウンロードする場所に移動します。
3. コマンド `setup.exe -cache <path><file name>` を実行します。
例: `setup.exe -cache c:\¥response.ini`

① 注記

必要な入力を含む既存の response.ini ファイルを使用する場合、BI インストーラでは情報の入力を求めずに直接キャッシュフェーズを開始します。

4. **前提条件のチェック**ウィンドウで、結果を確認し、インストールを続行するか、中止して要件に満たない部分を修正するかを選択します。
インストールプログラムによって必要なコンポーネントと条件がチェックされます。
 - 依存関係の前提条件が重要な場合は、インストールを続行することができません。
 - 見つからない、またはサポートされていないコンポーネントがオプションの場合は、インストールを続行するか、中止して条件を修正するかを選択することができます。
5. **インストールウィザード**ウィンドウで、表示された指示を確認します。
6. **使用許諾契約**ウィンドウで、使用許諾契約を確認して同意します。
7. **[新しいライセンスキー要件]**ウィンドウで、新しいライセンスキー要件の内容を確認して、チェックボックスを選択し、**[次へ]**を選択します。

① 注記

新しいライセンスキーの申請方法の詳細については、<http://scn.sap.com/docs/DOC-70095> にアクセスしてください。

システムを Business Intelligence プラットフォーム 4.3 アップデートにアップデートしたら、セントラル管理コンソールにログオンして、古いライセンスキーを削除し、新しいライセンスキーを追加する必要があります。または、スクリプトを実行して、ライセンスキーを削除することができます。スクリプトによるライセンスキーの削除の詳細については、[2276413](#) を参照してください。

セントラル管理コンソールに新しいライセンスキーを追加するまで、特定のサーバは無効な状態です。

新しいライセンスキーを追加すると、**[サーバ]**ウィンドウに移動して、無効な状態にあるこれらのサーバを有効化することができます。

詳細については、**Business Intelligence** プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

8. **既存の CMS デプロイメント情報**ウィンドウで、CMS ログオン管理者 **[パスワード]** の情報を入力します。
9. **Web アプリケーションデプロイメント**ウィンドウで、適切な Web アプリケーションデプロイメントのラジオボタンを選択し、**[次へ]**を選択します。

① 注記

基本インストールにバンドルされているデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバが存在する場合、Business Intelligence プラットフォームインストーラに [Web アプリケーションデプロイメント] ウィンドウが表示されます。存在しない場合は、[Web アプリケーションデプロイメント] ウィンドウは表示されません。

- [Web アプリケーションを今すぐデプロイする] ラジオボタンを選択すると、バンドルされているデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツがデプロイされます。
- [Web アプリケーションを後でデプロイする] ラジオボタンを選択すると、バンドルされているデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツはデプロイされません。
- BI プラットフォームおよび SAP BusinessObjects Explorer アドオン製品をインストールする場合は、[Web アプリケーションを後でデプロイする] ラジオボタンを選択することをお奨めします。ご使用のシステムに Explorer アドオン製品をインストールする場合は、[Web アプリケーションを今すぐデプロイする] ラジオボタンを選択してください。これを選択すると、システムダウンタイムが全体的に短縮されます。

10. [インストールの開始] ウィンドウで [次へ] を選択してキャッシュを開始します。

① 注記

キャッシュフェーズではシステムダウンタイムが発生しないため、システムで作業を続けることができます。

11. [キャッシュが正常に完了しました] ダイアログが表示されます。

① 注記

キャッシュフェーズの後、メンテナンス時間があるときに、インストールを実行することができます。

12. response.ini ファイルディレクトリの場所に移動します。
13. [リモート CMS 管理者パスワード] を入力し、response.ini ファイルを保存します。
14. コマンドプロンプトに移動します。
15. ソフトウェアをダウンロードする場所を入力します。
16. `setup.exe -resume_after_cache <path><file name>` と入力します。
例: `setup.exe -resume_after_cache c:\¥response.ini`
17. [インストールを再開します] ウィンドウで、[OK] を選択します。
18. [インストール後の手順] ウィンドウで、指示に従って操作し、[次へ] を選択します。

これで、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 アップデートのインストールが完了しました。

① 注記

キャッシュ後のインストールでのみシステムダウンタイムが発生する場合があるため、システムダウンタイムは全体的に短縮されます。

5.4.2 ユーザインタフェースからアップデートインストールのフェーズ別インストールを実行する

1. setup.exe ファイルの場所に移動します。
2. setup.exe ファイルを実行します。
3. **前提条件のチェック**ウィンドウで、結果を確認し、インストールを続行するか、中止して要件に満たない部分を修正するかを選択します。
インストールプログラムによって必要なコンポーネントと条件がチェックされます。
 - 依存関係の前提条件が重要な場合は、インストールを続行することができません。
 - 見つからない、またはサポートされていないコンポーネントがオプションの場合は、インストールを続行するか、中止して条件を修正するかを選択することができます。
4. **インストールウィザード**ウィンドウで、表示された指示を確認します。
5. **使用許諾契約**ウィンドウで、使用許諾契約を確認して同意します。
6. **新しいライセンスキー要件**ウィンドウで、新しいライセンスキー要件の内容を確認して、チェックボックスを選択し、**[次へ]**を選択します。

① 注記

新しいライセンスキーの申請方法の詳細については、<http://scn.sap.com/docs/DOC-70095> にアクセスしてください。

システムを Business Intelligence プラットフォーム 4.3 アップデートにアップデートしたら、セントラル管理コンソールにログオンして、古いライセンスキーを削除し、新しいライセンスキーを追加する必要があります。または、スクリプトを実行して、ライセンスキーを削除することができます。スクリプトによるライセンスキーの削除の詳細については、[2276413](#) を参照してください。

セントラル管理コンソールに新しいライセンスキーを追加するまで、特定のサーバは無効な状態です。

新しいライセンスキーを追加すると、**[サーバ]** ウィンドウに移動して、無効な状態にあるこれらのサーバを有効化することができます。

詳細については、**Business Intelligence** プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

7. **既存の CMS デプロイメント情報**ウィンドウで、CMS ログオン管理者 **[パスワード]** の情報を入力します。
8. **インストールモードの選択**ウィンドウで、**[フェーズ別インストール]** ラジオボタンを選択します。

① 注記

キャッシュは 2 フェーズ (キャッシュとキャッシュ後のインストール) で実行されます。

キャッシュ中はシステムダウンタイムが発生しないため、システムで作業を続けることができます。

キャッシュ後のインストール中は、ソフトウェアをインストールするシステムでシステムダウンタイムが発生します。

9. キャッシュフェーズを開始するには、**[次へ]** を選択します。
[キャッシュが正常に完了しました] ウィンドウが表示されます。
10. フェーズ別インストールを終了するには、**[完了]** を選択します。

① 注記

キャッシュフェーズの後、メンテナンス時間があるときに、インストールを実行することができます。

11. キャッシュフェーズの後にインストールを再開するには、ステップ1および2を実行します。
12. さらに続行するには、ステップ3、5、6、および7を実行します。
13. **Web アプリケーションデプロイメント**ウィンドウで、適切な Web アプリケーションデプロイメントのラジオボタンを選択し、**[次へ]**を選択します。

① 注記

基本インストールにバンドルされているデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバが存在する場合、Business Intelligence プラットフォームインストーラに **[Web アプリケーションデプロイメント]** ウィンドウが表示されます。存在しない場合は、**[Web アプリケーションデプロイメント]** ウィンドウは表示されません。

- **[Web アプリケーションを今すぐデプロイする]** ラジオボタンを選択すると、バンドルされているデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツがデプロイされます。
 - **[Web アプリケーションを後でデプロイする]** ラジオボタンを選択すると、バンドルされているデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツはデプロイされません。
 - BI プラットフォームおよび SAP BusinessObjects Explorer アドオン製品をインストールする場合は、**[Web アプリケーションを後でデプロイする]** ラジオボタンを選択することをお奨めします。ご使用のシステムに Explorer アドオン製品をインストールする場合は、**[Web アプリケーションを今すぐデプロイする]** ラジオボタンを選択してください。これを選択すると、システムダウンタイムが全体的に短縮されます。
14. **インストールを再開します**ウィンドウで、**[次へ]**を選択します。
アップデートインストールが開始されます。インストールが完了すると、**[インストール後の手順]** ウィンドウが表示されます。
 15. **インストール後の手順**ウィンドウで、指示に従って操作し、**[次へ]**を選択します。
 16. インストールを終了するには、**[完了]**を選択します。
これで、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 アップデートのインストールが完了しました。

① 注記

キャッシュ後のインストールでのみシステムダウンタイムが発生するため、システムダウンタイムは全体的に短縮されます。

5.5 Windows でアップデートをアンインストールする

アップデートは、インストールした順序とは逆順に、一度に1つつアンインストールできます。アップデートをアンインストールした場合は、デプロイメントを使用する前に、デプロイメント内のすべての製品が同じバージョンになっていることを確認してください。

バンドルされたバージョンの Tomcat をインストールしている場合、アップデートの WAR ファイルはアンインストールプログラムによって自動的にアンインストールされ、旧バージョンの WAR ファイルが自動的に復元されません。

バンドルされている Web アプリケーションサーバを使用していない場合は、アップデートをアンインストールする前に、すべての BI プラットフォーム Web アプリケーションをアンデプロイすることをお勧めします。アンデプロイは、手動または WDeploy ツールを使用して行うことができます。

① 注記

アンインストールプログラムは、CMS を 4.3 デプロイメントから 4.0、4.1、または 4.2 デプロイメントに戻しません。次の製品のアップデートをアンインストールする場合は、アンインストールの完了後に、CMS データベースをバックアップから手動で復元する必要があります。

- BI プラットフォーム
- 情報プラットフォームサービス
- SAP Crystal Server

BI プラットフォームのバックアップと復元の詳細については、*Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドのバックアップと復元の概要を参照してください。

1. Windows の [スタート] から [設定] をポイントし、[コントロール パネル] を選択します。
2. [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。
3. プログラムの一覧からメンテナンスエントリを強調表示して、[変更と削除] をクリックします。
[アプリケーションのメンテナンス] ダイアログボックスが表示されます。
4. [削除] を選択して、[はい] をクリックします。
5. 適切なファイルの削除と設定が終了するまで、しばらく待ちます。[完了] をクリックします。

アップデートをアンインストールした後、<INSTALLEDIR>%SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0%warfiles にある旧バージョンの WAR ファイルを Web アプリケーションサーバに再デプロイできます。デプロイメントのすべてのコンポーネントのバージョンレベルが同じである必要があります。

詳細については、Web アプリケーションデプロイメントガイドの wdeploy または手動デプロイメントの手順を参照してください。

6 UNIX でのアップデートインストール

① 注記

ベストプラクティスとして、インストールまたはアンインストールアクティビティを開始する前に、CMS データベースおよびファイルリポジトリシステムをバックアップする必要があります。BI プラットフォームのバックアップと復元の詳細については、*Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドのバックアップと復元の概要を参照してください。

このアップデートをインストールしているマシンのリソースを解放するには、アップデートをインストールする前に、セントラル管理コンソール (CMC) を使用して、マシン上のすべての BI プラットフォームサーバを停止します。ただし、以下を除きます。

- Server Intelligence Agent (SIA)
- Central Management Server (CMS)
- Input/Output File Repository Server (FRS)
- CMS システム データベース

これらのサービスおよびサーバはインストールを続けるために動作し続ける必要があります。

① 注記

サーバコンポーネントを更新する場合は、CMS ログオン認証情報を入力する必要があります。これは、サーバ プロパティのローカライズされた文字列など、CMS データベースに格納されているコンテンツを更新するために必要です。

① 注記

Secure Sockets Layer (SSL) が有効化されている場合は、インストールを続行できません。アップデートをインストールするマシンで、SSL が有効化されている場合は、インストールを行う前に SSL をオフにする必要があります。インストールの完了後に、SSL をオンに戻します。

関連情報

[プラットフォームのサポート \[9 ページ\]](#)

6.1 UNIX に BI プラットフォームサーバのアップデートをインストールする

1. アップデートインストールプログラムが含まれるディレクトリから次のコマンドを実行して、インストールを開始します。

```
./setup.sh -<InstallDir i.e. Destination folder into which the setup program  
will install>
```

2. **[インストールフォルダの設定]** ウィンドウで、インストールディレクトリを入力します。アップデートは、フルインストールと同じディレクトリにインストールする必要があります。たとえば、BI プラットフォームのインストールでは、このディレクトリにはスクリプト `modifyOrRemoveProducts.sh` が含まれます。インストールディレクトリの値は、前のステップの `InstallDir` パラメータの値と同じにする必要があります。インストールプログラムによって、BI プラットフォームをマシンにインストールできるようにする前提条件チェックが開始されます。
3. **[前提条件のチェック]** ウィンドウで、前提条件チェックの結果を確認します。インストールを続行する場合は、**Enter** キーを押します。
4. **インストールウィザード** ウィンドウで、表示された指示を確認し、**Enter** キーを押します。
5. **[使用許諾契約]** ウィンドウで、エンドユーザ使用許諾契約の内容を確認して、使用許諾契約に同意し、**Enter** キーを押します。
6. **[新しいライセンスキー要件]** ウィンドウで、新しいライセンスキー要件の内容を確認して、**Enter** キーを押します。

新しいライセンスキーの申請方法の詳細については、<http://scn.sap.com/docs/DOC-70095> にアクセスしてください。

システムを SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 アップデートにアップデートしたら、セントラル管理コンソールにログオンして、古いライセンスキーを削除し、新しいライセンスキーを追加する必要があります。または、スクリプトを実行して、ライセンスキーを削除することができます。スクリプトによるキーの削除の詳細については、SAP ノート [2276413](#) を参照してください。

① 注記

セントラル管理コンソールに新しいライセンスキーを追加するまで、すべてのサービスは無効な状態です。

詳細については、**Business Intelligence** プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

7. **[言語パッケージの選択]** ウィンドウで、インストールする追加言語を一覧から選択し、**[次へ]** を選択します。
オペレーティングシステムで現在使用されている言語が自動的に選択されます。指定の言語で問題が検知された場合、BI プラットフォームでは英語が使用されるため、英語言語サポートを選択解除することはできません。

① 注記

[言語パッケージの選択] ウィンドウでは、以前にインストールした言語パックのチェックボックスがデフォルトで選択されています。チェックボックスを選択して、言語パックを追加または削除することができます。

8. アップデートにサーバコンポーネントが含まれている場合は、**[既存の CMS デプロイメント情報]** ウィンドウが表示されます。CMS 管理者パスワードを入力し、**Enter** キーを押します。
9. **[インストールモードの選択]** ウィンドウで、**[標準インストール]** オプションを選択します。
10. **[Web アプリケーションデプロイメント]** ウィンドウで、適切な Web アプリケーションデプロイメントのオプションを選択します。

① 注記

基本インストールにデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバが存在する場合、Business Intelligence プラットフォームインストーラに [Web アプリケーションデプロイメント] ウィンドウが表示されます。存在しない場合は、[Web アプリケーションデプロイメント] ウィンドウは表示されません。

- [Web アプリケーションを今すぐデプロイする] ラジオボタンを選択すると、デフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバがデプロイされます。
 - [Web アプリケーションを後でデプロイする] ラジオボタンを選択すると、デフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバはデプロイされません。
 - BI プラットフォームおよびその他のクライアント製品をインストールする場合は、[Web アプリケーションを後でデプロイする] ラジオボタンを選択することをお奨めします。ご使用のシステムに最後のクライアント製品をインストールする場合は、[Web アプリケーションを今すぐデプロイする] ラジオボタンを選択してください。これを選択すると、システムダウンタイムが全体的に短縮されます。
11. [インストールの開始] ウィンドウで、**Enter** キーを押してインストールを開始します。
進行状況インジケータに、インストールのステータスが表示されます。

インストールが完了すると、メッセージが表示されます。このメッセージには、インストール後の指示も含まれている場合があります。

① 注記

アップデートの一部として Web アプリケーションが修正される場合は、元の BI プラットフォームのインストール時に選択したオプションに応じて、インストール後の画面に .war ファイルを再デプロイする手順が表示される場合があります。

12. **Enter** キーを押して、インストールを完了します。
- インストールの詳細を確認するには、`<INSTALLDIR>/InstallData/logs/<DATEandTIME>/` にあるインストールログファイルの内容を確認します。

6.2 UNIX でのサイレントインストール

6.2.1 UNIX で応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行する

更新は、応答ファイルを使用してサイレントインストールできます。

サイレントインストールは、特に、複数のインストールをすばやく実行したりインストールを自動化したりする場合に便利です。

応答ファイルを使用したサイレントインストールを実行するには、まず応答ファイルを作成する必要があります。

次の手順では、インストールプログラムを使用して応答ファイルを作成する方法を示します。応答ファイルを作成したら、応答ファイルのパスを指定して `./setup.sh` コマンドを実行することにより、サイレントインストールを実行できます。

① 注記

応答ファイルを使用してサイレントインストールを実行している場合、対象となるアップデートまたはパッチのインストールパッケージから `setup.sh` ファイルを使用して応答ファイルを作成する必要があります。応答ファイルは、アップデートインストールとパッチインストールの間で共有することはできません。

1. 応答ファイルを作成する。

- パッチインストールソースファイルが保存されているディレクトリから、書き込みオプション (`-w`) を指定して `.setup.sh` コマンドを実行します。

```
./setup.sh InstallDir=<INSTALLDIR> -w <responsefilepath/filename.ini>
```

ここで、`<INSTALLDIR>` は BI プラットフォームのインストールディレクトリで、`<responsefilepath/filename.ini>` は作成する応答ファイルのパスおよびファイル名です。

- `[Enter]` キーを押して、インストールプログラムを起動します。
- 画面の指示に従ってインストール設定を入力し、セットアッププログラムの `[インストールの開始]` ダイアログボックスが表示されたら `Enter` キーを押します。
これらの設定は、応答ファイルに記録されます。

① 注記

GUI インストールプログラムで応答ファイルを作成する場合、GUI を介して入力したライセンスキーおよびすべてのパスワードはプレーンテキスト形式の応答ファイルには書き込まれません。サイレントインストールを実行する前に、アスタリスク (`*****`) の部分を実際のパスワードに置き換える必要があります。

- 応答ファイルを編集し、適切なパスワードによってアスタリスクを置換します。
- 以下のコマンドを使用して、`.ini` ファイルを使用するサイレントインストールを実行します。

```
./setup.sh InstallDir=<INSTALLDIR> -r <responsefilepath>/filename.ini  
<responsefilepath>/filename.ini は、作成する応答ファイルのパスとファイル名です。
```

インストールログファイルは、`<INSTALLDIR>/InstallData/logs/<DATEandTIME>/` に保存されます。

① 注記

新しいライセンスキーの申請方法の詳細については、<http://scn.sap.com/docs/DOC-70095> にアクセスしてください。

システムを SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 アップデートに更新したら、セントラル管理コンソールにログオンして、古いライセンスキーを削除し、新しいライセンスキーを追加する必要があります。または、スクリプトを実行して、ライセンスキーを削除することができます。スクリプトによるキーの削除の詳細については、SAP ノート [2276413](#) を参照してください。

セントラル管理コンソールに新しいライセンスキーを追加するまで、特定のサーバは無効な状態です。

詳細については、**Business Intelligence** プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

① 注記

- [Web アプリケーションデプロイメント](#) ウィンドウで、適切な Web アプリケーションデプロイメントのラジオボタンを選択します。

- 基本インストールにデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバが存在する場合、Business Intelligence プラットフォームインストーラに [Web アプリケーションデプロイメント] ウィンドウが表示されます。存在しない場合は、[Web アプリケーションデプロイメント] ウィンドウは表示されません。
 - [Web アプリケーションを今すぐデプロイする] ラジオボタンを選択すると、デフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツがデプロイされます。
 - [Web アプリケーションを後でデプロイする] ラジオボタンを選択すると、デフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツはデプロイされません。
 - BI プラットフォームおよびその他のクライアント製品をインストールする場合は、[Web アプリケーションを後でデプロイする] ラジオボタンを選択することをお奨めします。ご使用のシステムに最後のクライアント製品をインストールする場合は、[Web アプリケーションを今すぐデプロイする] ラジオボタンを選択してください。これを選択すると、システムダウンタイムが全体的に短縮されます。

6.3 段階的インストールを実行する

インストールは 2 段階 (キャッシュとキャッシュ後のインストール) で実行されます。

- キャッシュは、ソフトウェアをインストールディレクトリにコピーするプロセスです。
- キャッシュ後のインストールは、実際のインストールプロセスです。

6.3.1 ユーザインタフェースからアップデートインストールのフェーズ別インストールを実行する

パッチアップデートのフェーズ別インストールを実行するには、以下の手順に従います。

1. コマンドプロンプトを開きます。
2. ソフトウェアをダウンロードする場所に移動します。
3. コマンド `./setup.sh` ファイルを実行します。
 コマンドラインから `InstallDir=<DESTINATION_DIR>` パラメータでインストール先フォルダを設定します。たとえば、BI プラットフォームを `/opt/sap` フォルダにインストールするには、コマンド `./setup.sh InstallDir=/opt/sap` を使用します。
4. **前提条件のチェック** ウィンドウで、結果を確認し、インストールを続行するか、中止して要件に満たない部分を修正するかを選択します。インストールを続行する場合は、[Enter] キーを押します。
 インストールプログラムによって必要なコンポーネントと条件がチェックされます。
 - 依存関係の前提条件が重要な場合は、インストールを続行することができません。
 - 見つからない、またはサポートされていないコンポーネントがオプションの場合は、インストールを続行するか、中止して条件を修正するかを選択することができます。

5. インストールウィザードウィンドウで、表示された指示を確認し、[Enter] キーを押します。
6. 使用許諾契約ウィンドウで、使用許諾契約を確認し、[Enter] キーを押して同意します。
7. 新しいライセンスキー要件ウィンドウで、新しいライセンスキー要件の内容を確認し、[Enter] キーを押して、アップデートインストール後に古いライセンスキーを削除して新しいライセンスキーを追加することに同意します。

① 注記

新しいライセンスキーの申請方法の詳細については、<http://scn.sap.com/docs/DOC-70095> にアクセスしてください。

システムを Business Intelligence プラットフォーム 4.3 アップデートにアップデートしたら、セントラル管理コンソールにログオンして、古いライセンスキーを削除し、新しいライセンスキーを追加する必要があります。または、スクリプトを実行して、ライセンスキーを削除することができます。スクリプトによるライセンスキーの削除の詳細については、[2276413](#) を参照してください。

セントラル管理コンソールに新しいライセンスキーを追加するまで、特定のサーバは無効な状態です。

新しいライセンスキーを追加すると、[サーバ] ウィンドウに移動して、無効な状態にあるこれらのサーバを有効化することができます。

詳細については、**Business Intelligence** プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

8. 既存の CMS デプロイメント情報ウィンドウで、管理者パスワードを入力し、[Enter] キーを押します。
9. インストールモードの選択ウィンドウで、[フェーズ別インストール] オプションを選択し、[Enter] キーを押します。

① 注記

BI プラットフォームインストーラでは、インストールは 2 フェーズ (キャッシュとキャッシュ後のインストール) で実行されます。

キャッシュ中はシステムダウンタイムが発生しないため、システムで作業を続けることができます。

キャッシュ後のインストール中は、ソフトウェアをインストールするシステムでシステムダウンタイムが発生します。

10. キャッシュフェーズを開始するには、[Enter] キーを押します。
[キャッシュが正常に完了しました] ウィンドウが表示されます。
11. フェーズ別インストールを終了するには、[Enter] キーを押します。

① 注記

キャッシュフェーズの後、メンテナンス時間があるときに、インストールを実行することができます。

12. キャッシュフェーズの後にインストールを再開するには、ステップ 1 および 2 を実行します。
13. さらに続行するには、ステップ 3 から 7 を実行します。
14. Web アプリケーションデプロイメントウィンドウで、適切な Web アプリケーションデプロイメントのラジオボタンを選択し、[Enter] キーを押します。

① 注記

基本インストールにバンドルされているデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバが存在する場合、Business Intelligence プラットフォームインストーラに [Web アプリケーションデプロイメント] ウィンドウが表示されます。存在しない場合は、[Web アプリケーションデプロイメント] ウィンドウは表示されません。

- [\[Web アプリケーションを今すぐデプロイします。\]](#) オプションを選択すると、バンドルされているデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツがデプロイされます。
 - [\[Web アプリケーションを後でデプロイする\]](#) オプションを選択すると、バンドルされているデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツはデプロイされません。
 - BI プラットフォームおよび SAP BusinessObjects Explorer アドオン製品をインストールする場合は、[\[Web アプリケーションを後でデプロイする\]](#) ラジオボタンを選択することをお奨めします。ご使用のシステムに Explorer アドオン製品をインストールする場合は、[\[Web アプリケーションを今すぐデプロイします。\]](#) ラジオボタンを選択してください。これを選択すると、システムダウンタイムが全体的に短縮されます。
15. [インストールを再開します](#) ウィンドウで、[\[Enter\]](#) キーを押してインストールを再開します。
アップデートインストールが開始されます。インストールが完了すると、[\[インストール後の手順\]](#) ウィンドウが表示されます。
 16. [インストール後の手順](#) ウィンドウで、指示に従って操作し、[\[Enter\]](#) キーを押します。
 17. インストールを終了するには、[\[Enter\]](#) キーを押します。

これで、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 アップデートのインストールが完了しました。

① 注記

キャッシュ後のインストールでのみシステムダウンタイムが発生するため、システムダウンタイムは全体的に短縮されます。

6.3.2 コマンドプロンプトからアップデートインストールのフェーズ別インストールを実行する

パッチアップデートのフェーズ別インストールを実行するには、以下の手順に従います。

LC_ALL を en_US.utf8 などのサポートされている UTF-8 文字セットに設定してください。例:

```
export LANG=en_US.utf8
export LC_ALL=en_US.utf8
```

1. コマンドプロンプトを開きます。
2. ソフトウェアをダウンロードする場所に移動します。
3. コマンド `./setup.sh -cache <path>/<file name>` を実行します。
例: `./setup.sh -cache /build/response.ini`

① 注記

必要な入力を含む既存の response.ini ファイルを使用する場合、BI インストーラでは情報の入力を求めずに直接キャッシュフェーズを開始します。

4. **前提条件のチェック**ウィンドウで、結果を確認し、インストールを続行するか、中止して要件に満たない部分を修正するかを選択します。インストールを続行する場合は、[Enter] キーを押します。
インストールプログラムによって必要なコンポーネントと条件がチェックされます。
 - 依存関係の前提条件が重要な場合は、インストールを続行することができません。
 - 見つからない、またはサポートされていないコンポーネントがオプションの場合は、インストールを続行するか、中止して条件を修正するかを選択することができます。
5. **インストールウィザード**ウィンドウで、表示された指示を確認し、[Enter] キーを押します。
6. **使用許諾契約**ウィンドウで、使用許諾契約を確認し、[Enter] キーを押して同意します。
7. **新しいライセンスキー要件**ウィンドウで、新しいライセンスキー要件の内容を確認し、[Enter] キーを押して、**アップデートインストール後に古いライセンスキーを削除して新しいライセンスキーを追加することに同意**します。

① 注記

新しいライセンスキーの申請方法の詳細については、<http://scn.sap.com/docs/DOC-70095> にアクセスしてください。

システムを Business Intelligence プラットフォーム 4.3 アップデートにアップデートしたら、セントラル管理コンソールにログオンして、古いライセンスキーを削除し、新しいライセンスキーを追加する必要があります。または、スクリプトを実行して、ライセンスキーを削除することができます。スクリプトによるライセンスキーの削除の詳細については、[2276413](#) を参照してください。

セントラル管理コンソールに新しいライセンスキーを追加するまで、特定のサーバは無効な状態です。

新しいライセンスキーを追加すると、[サーバ] ウィンドウに移動して、無効な状態にあるこれらのサーバを有効化することができます。

詳細については、**Business Intelligence** プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

8. **既存の CMS デプロイメント情報**ウィンドウで、管理者**パスワード**を入力し、[Enter] キーを押します。
9. **Web アプリケーションデプロイメント**ウィンドウで、適切な Web アプリケーションデプロイメントのラジオボタンを選択し、[Enter] キーを押します。

① 注記

基本インストールにバンドルされているデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバが存在する場合、Business Intelligence プラットフォームインストーラに [Web アプリケーションデプロイメント] ウィンドウが表示されます。存在しない場合は、[Web アプリケーションデプロイメント] ウィンドウは表示されません。

- [Web アプリケーションを今すぐデプロイします。] オプションを選択すると、バンドルされているデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツがデプロイされます。
 - [Web アプリケーションを後でデプロイする] オプションを選択すると、バンドルされているデフォルトの Tomcat JAVA Web アプリケーションサーバに Web アプリケーションのコンテンツはデプロイされません。
 - BI プラットフォームおよび SAP BusinessObjects Explorer アドオン製品をインストールする場合は、[Web アプリケーションを後でデプロイする] ラジオボタンを選択することをお奨めします。ご使用のシステムに Explorer アドオン製品をインストールする場合は、[Web アプリケーションを今すぐデプロイします。] ラジオボタンを選択してください。これを選択すると、システムダウンタイムが全体的に短縮されます。
10. [インストールの開始] ウィンドウで、[Enter] キーを押してキャッシュを開始します。

キャッシュが開始されます。キャッシュが完了すると、**キャッシュが正常に完了しました**ウィンドウが表示されます。

① 注記

キャッシュフェーズではシステムダウンタイムが発生しないため、システムで作業を続けることができます。

11. **キャッシュが正常に完了しました**で、[Enter] キーを押してフェーズ別インストールを終了します。

① 注記

キャッシュフェーズの後、メンテナンス時間があるときに、インストールを実行することができます。

12. response.ini ファイルディレクトリの場所に移動します。
13. [リモート CMS 管理者パスワード] を入力し、response.ini ファイルを保存します。
14. コマンドプロンプトを開きます。
15. ソフトウェアをダウンロードする場所に移動します。
16. コマンド `./setup.sh -resume_after_cache <path>/<file name>` を実行します。
例: `./setup.sh -resume_after_cache /build/response.ini`
17. インストールを再開するには、[Enter] キーを押します。
インストールを再開すると、インストーラによりキャッシュ中に発生したエラーが修復され、インストールが
続行されます。
インストールが開始されます。インストールが完了すると、インストール後の指示が含まれている完了画面が
表示されます。
18. **インストール後の手順**ウィンドウで、[Enter] キーを押します。
19. [Enter] キーを押して、インストールを終了します。

これで、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3 アップデートのインストールが完了しました。

① 注記

キャッシュ後のインストールでのみシステムダウンタイムが発生するため、システムダウンタイムは全体的に短縮されます。

6.4 UNIX でアップデートをアンインストールする

アップデートは、インストールした順序とは逆順に、一度に1つずつアンインストールできます。アップデートをアンインストールした場合は、デプロイメントを使用する前に、デプロイメント内のすべての製品が同じバージョンになっていることを確認してください。

バンドルされたバージョンの Tomcat に WAR ファイルをインストールした場合、それらのファイルはアンインストールプログラムによって自動的にアンインストールされ、旧バージョンの WAR ファイルが自動的に復元されます。

バンドルされている Web アプリケーションサーバを使用していない場合は、アップデートをアンインストールする前に、すべての BI プラットフォーム Web アプリケーションをアンデプロイすることをお勧めします。アンデプロイは、手動または WDeploy ツールを使用して行うことができます。

① 注記

アンインストールプログラムは、CMS を 4.3 デプロイメントから 4.0、4.1、または 4.2 デプロイメントに戻しません。次の製品のアップデートをアンインストールする場合は、アンインストールの完了後に、CMS データベースをバックアップから手動で復元する必要があります。

- BI プラットフォーム
- 情報プラットフォームサービス
- SAP Crystal Server

BI プラットフォームのバックアップと復元の詳細については、*Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドのバックアップと復元の概要を参照してください。

1. アップデートをアンインストールするには、BI プラットフォームのインストールディレクトリから次のコマンドを実行します。

```
./modifyOrRemoveProducts.sh
```

[プログラムの追加と削除] ダイアログボックスが表示されます。

2. 削除するアップデートを選択し、**Enter** キーを押します。
Central Management Server 認証情報の入力が必要です。
3. CMS 認証情報を入力し、**Enter** キーを押して続行します。
4. [製品をアンインストールします] を選択し、**Enter** キーを押します。
確認ダイアログボックスが表示されます。
5. **はい** を選択し、**Enter** キーを押します。
アンインストール処理が開始されます。

アップデートをアンインストールした後、**<INSTALLDIR>/sap_bobj/enterprise_xi40/warfiles** にある旧バージョンの WAR ファイルを Web アプリケーションサーバに再デプロイできます。デプロイメントのすべてのコンポーネントのバージョンレベルが同じである必要があります。

4.3 アップデートインストールから 4.0、4.1、または 4.2 インストールに戻すには、4.0、4.1、または 4.2 データベースをバックアップから復元する必要があります。SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

詳細については、Web アプリケーションデプロイメントガイドの WDeploy または手動デプロイメントの手順を参照してください。

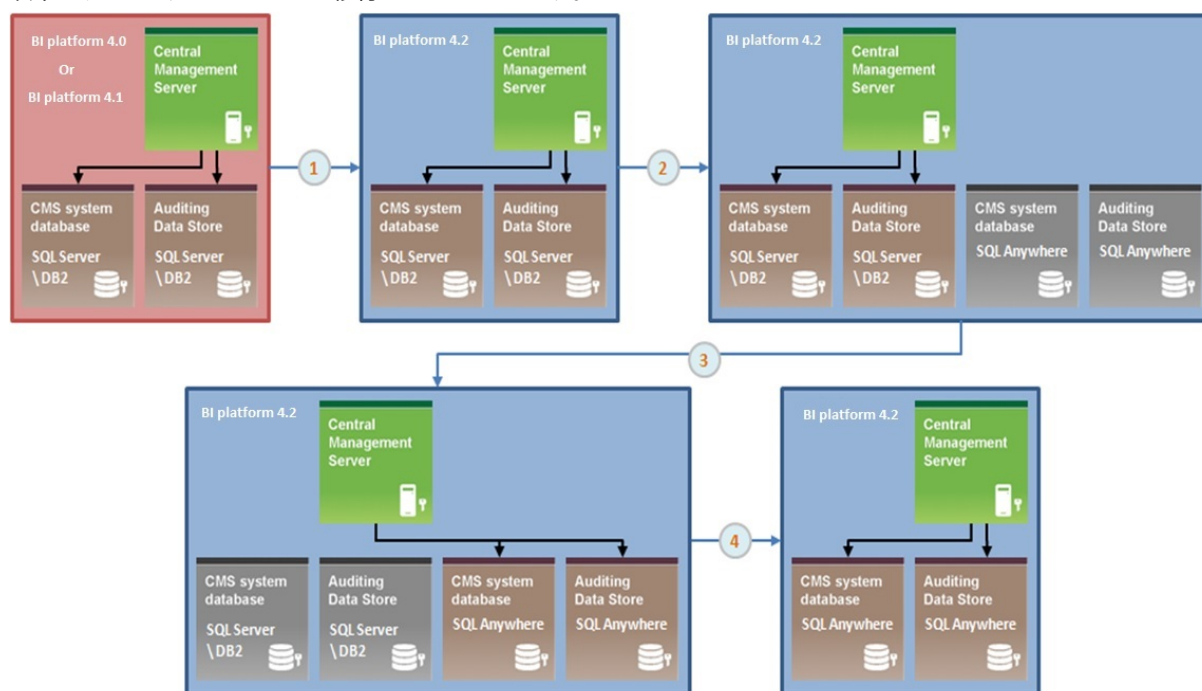
7 Sybase SQL Anywhere への移行

4.3 BI プラットフォーム完全インストールプログラムにおける Central Management Server (CMS) および監査データストア (ADS) のバンドルされたデフォルトデータベースが、Sybase SQL Anywhere です。アップデートインストールプログラムを使用してデプロイメントを 4.0、4.1、または 4.2 から 4.3 または 4.3 SP1 に更新した場合、およびバンドルされた IBM DB2 Workgroup Edition (UNIX) または Microsoft SQL Server 2008 Express (Windows) データベースサーバを使用する場合、これらのデータベースサーバは CMS および監査データベース用に保持されます。追加のアクションを実行せず、これらのバンドルされたデータベースサーバを引き続き使用できます。または、この節に記載されている手順に従って、既存のデータベースを Sybase SQL Anywhere に移行できます。

△ 警告

この節には、CMS データの新しいデータベースサーバへのコピーと、既存のデータベースサーバおよびデータの削除を含む手順が記載されています。続行する前に、既存のデータベースサーバをバックアップします。

以下は、CMS データベースの移行ワークフローです。



Sybase SQL Anywhere 移行ワークフロー

1. 4.3 アップデートインストールプログラムを使用して、4.0、4.1、または 4.2 BI プラットフォームインストールを 4.3 または 4.3 SP1 に更新します。
4.0、4.1、または 4.2 BI プラットフォームインストールに 4.3 マイナーリリースアップデートを適用する場合の指示については、本ガイドのアップデートインストール指示を参照してください。
2. 4.3 インストールを変更し、Sybase SQL Anywhere 機能を選択およびインストールします。
3. セントラル設定マネージャ (CCM) を使用して CMS データベースのコンテンツを既存のバンドルされたデータベースから Sybase SQL Anywhere にコピーし、CMS および監査データベースをアクティブサーバとして SQL Anywhere にポイントします。

▲ 制限

過去の監査データは、過去のバンドルされたデータベースに格納されたままであり、このデータを Sybase SQL Anywhere に移行するツールは提供されていません。

4. Microsoft SQL Server 2008 Express (Windows) または IBM DB2 Workgroup Edition (UNIX) を、コマンドラインを使用してアンインストールします。

関連情報

[4.3 インストールを変更し、SQL Anywhere を追加する \(Windows\) \[37 ページ\]](#)

[CMS データを SQL Anywhere にコピーする \(Windows\) \[38 ページ\]](#)

[Microsoft SQL Server 2008 Express を削除する \[41 ページ\]](#)

[4.3 インストールを変更し、SQL Anywhere を追加する \(UNIX\) \[41 ページ\]](#)

[CMS データを SQL Anywhere にコピーする \(UNIX\) \[42 ページ\]](#)

[IBM DB2 Workgroup Edition を削除する \[44 ページ\]](#)

7.1 Microsoft SQL Server 2008 Express から

7.1.1 4.3 インストールを変更し、SQL Anywhere を追加する (Windows)

このタスクは、4.3 アップデートインストールプログラムを使用して 4.0、4.1、または 4.2 インストールの更新が完了しており、バンドルされた Microsoft SQL Server 2008 Express を CMS および監査データベース用に引き続き使用していることを前提としています。

BI プラットフォームサーバインストールが 4.3 レベルになったら、Sybase SQL Anywhere のバンドルされたデータベースをインストールに追加します。

1. **スタート > コントロールパネル > プログラムと機能** の順に選択します。
2. [\[SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.0\]](#)、[\[SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.1\]](#)、または [\[SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.2\]](#) (ベースレベル) を右クリックし、[\[アンインストールと変更\]](#) を選択します。
3. [\[アプリケーションのメンテナンス\]](#) ページで [\[変更\]](#) を選択し、[\[次へ\]](#) を選択します。
4. [\[言語パックの選択\]](#) ページで [\[次へ\]](#) をクリックし、続行します。
5. [機能の選択](#) ページで、[Sybase SQL Anywhere データベース \(サーバ > プラットフォームサービス\)](#) を選択し、[次へ](#) をクリックして変更を適用します。
6. [\[Sybase SQL Anywhere の設定\]](#) ページで、新しいデータベースサーバのアカウントパスワードおよびポート情報を選択します。

データベースアカウントパスワードは、後でセントラル設定マネージャ (CCM) で入力する必要があります。受信データベースクエリをリスニングする Sybase SQL Anywhere のデフォルトポートは、2638 です。デー

データベースがこのポートまたは指定したカスタムポートで受信接続を受信できる必要があるため、ファイアウォールが正しく設定されていることを確認してください。

[インストールの開始] ページが表示されます。インストールを開始します。

インストールの完了後、バンドルされた Sybase SQL Anywhere データベースがマシンにインストールされます。Microsoft SQL Server 2008 Express データベースサーバが、引き続きすべての既存データを含むアクティブな CMS および監査データベースです。CMS データベースを SQL Anywhere にコピーする (Windows) に進んでください。

7.1.2 CMS データを SQL Anywhere にコピーする (Windows)

⚠ 警告

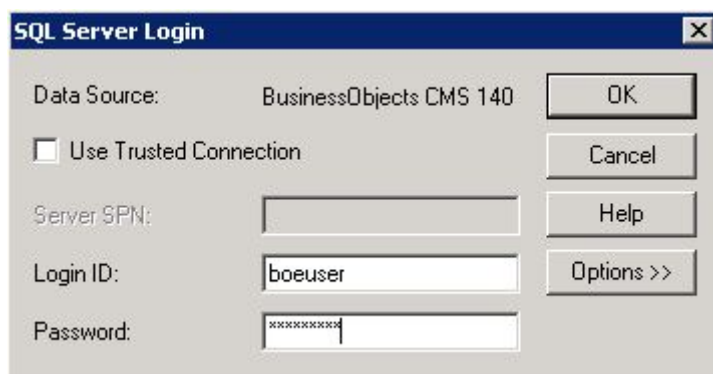
データをコピーする前に、既存 CMS データベースのバックアップなどの準備ステップを実行することが推奨されます。詳細については、*Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドの「“CMS システムデータベースのコピーの準備”」を参照してください。

CMS データベースのコンテンツをコピーする前に、4.3 インストールを変更し、SQL Anywhere を追加するで設定したアカウントを使用して、出力先の SQL Anywhere データベースにログオンできることを確認してください。

セントラル設定マネージャ (CCM) を使用して、CMS データを Microsoft SQL Server 2008 Express から Sybase SQL Anywhere にコピーします。この手順で使用される以下のデータベース情報を確認してください。

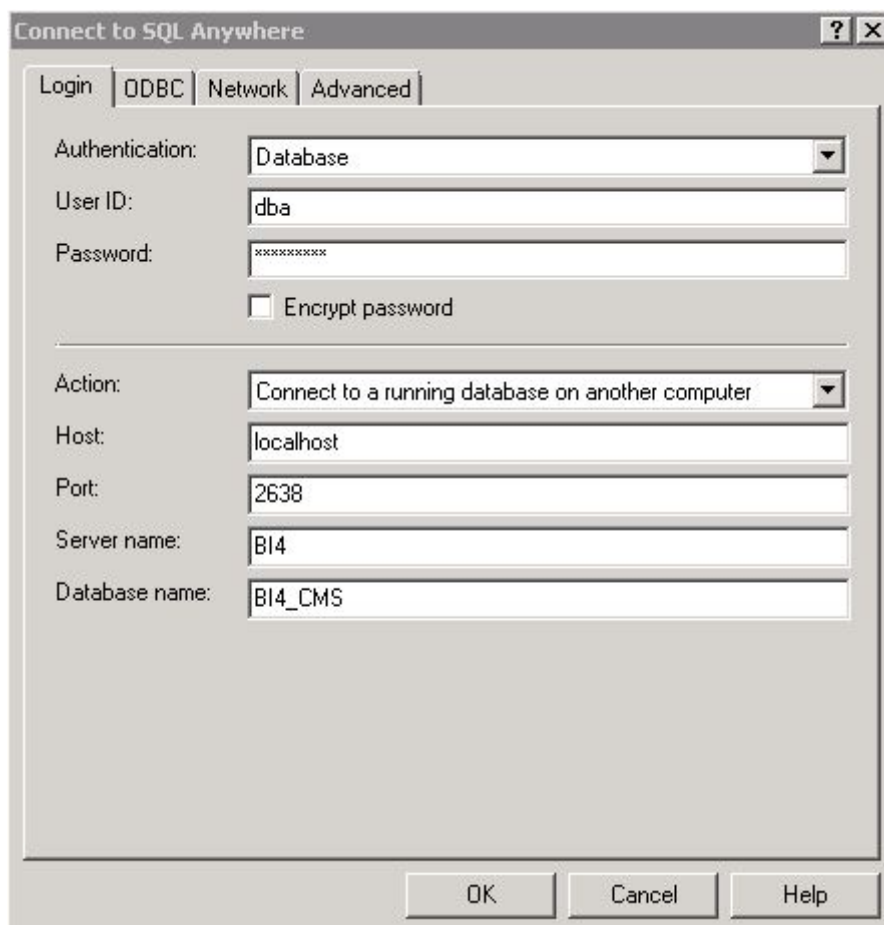
オプション	SQL Server Express (ソース)	SQL Anywhere (出力先)
CMS ODBC データソース名 (DSN)	BusinessObjects CMS 140	BI4_CMS_DSN
データベースアカウント	boeuser	dba
データベースアカウントパスワード	4.0、4.1、または 4.2 インストールプロセスで指定	4.3 変更インストールプロセスで指定
CMS クラスタキー	4.0、4.1、または 4.2 インストールプロセスで指定	4.0、4.1、または 4.2 インストールプロセスで指定

1. CCM を実行するには、**スタート** > **すべてのプログラム** > **SAP Business Intelligence** > **SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.3** > **セントラル設定マネージャ** を選択します。
2. リストされたサーバをすべて選択し、**[停止]** ボタンをクリックします。
3. Server Intelligence Agent (SIA) が停止した後、SIA を右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。
4. **[設定]** タブをクリックし、**[指定]** をクリックします。
5. **[別のデータソースからデータをコピー]** を選択して、**[OK]** をクリックします。
6. ソース CMS データベース (Microsoft SQL Server 2008 Express) のデータベースタイプを選択します。
 - a. **[データソースの指定]** ページで、**[指定]** をクリックします。
 - b. **[SQL Server (ODBC)]** を選択し、**[OK]** をクリックします。
 - c. **[マシンデータソース]** タブで **[BusinessObjects CMS 140]** を選択し、**[OK]** をクリックします。
 - d. **[SQL Server ログイン]** ページで、データベース管理者アカウントのユーザ名とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。



(英語の例)

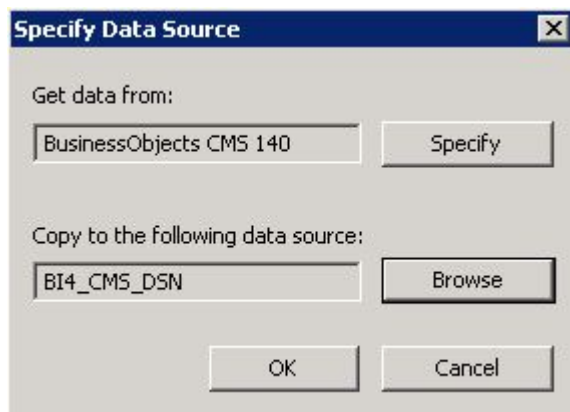
- e. 指示に応じてクラスターキーを入力し、[OK] をクリックします。
7. 出力先 CMS データベース (Sybase SQL Anywhere) のデータベースタイプを選択します。
 - a. [データソースの指定] ページで、[参照] をクリックします。
 - b. [SQL Anywhere (ODBC)] を選択し、[OK] をクリックします。
 - c. [マシンデータソース] タブで [BI4_CMS_DSN] を選択し、[OK] をクリックします。
 - d. [SQL Anywhere に接続] ページで、データベース管理者アカウントのパスワードを入力し、[OK] をクリックします。



(英語の例)

- e. 指示に応じてクラスターキーを入力し、[OK] をクリックします。

8. [データソースの指定] ページで [OK] をクリックし、警告ダイアログボックスを確認します。



(英語の例)

9. [はい] をクリックして CMS データのコピーを開始します。CMS データベースのコピーが完了したら、[OK] をクリックします。

コピー手順が完了すると、出力先データベースが CMS の現在のデータベースとして設定されます。SIA を再起動し、新しい Sybase SQL Anywhere CMS データベースを使用して 4.3 BI プラットフォームインストールをテストします。

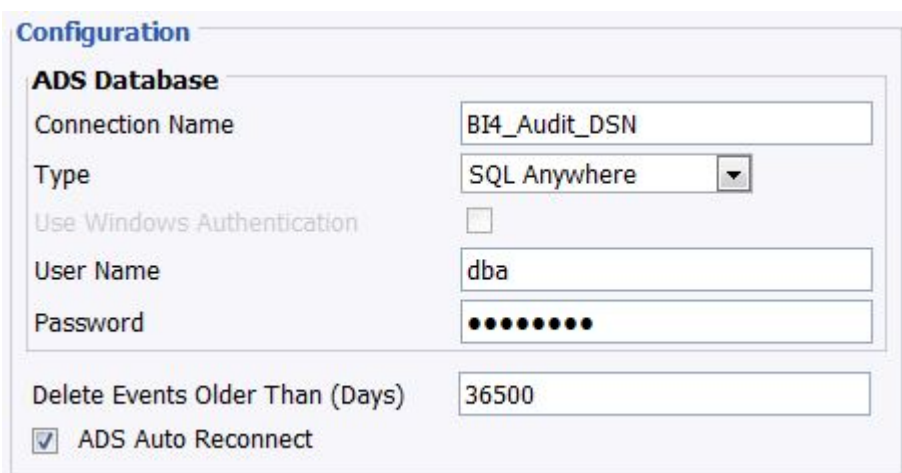
→ ヒント

現在の CMS データベースサーバ詳細を参照するには、CCM で SIA を右クリックし、[プロパティ] を選択します。[設定] タブに詳細が一覧表示されます。

また、新しいデータが Sybase SQL Anywhere に書き込まれるよう、監査データストア (ADS) を設定することもできます。セントラル管理コンソール (CMC) にログインし、[監査] ページで [設定] 見出しの下に Sybase SQL Anywhere ODBC DSN (BI4_Audit_DSN) およびアカウント詳細を入力します。[保存] をクリックし、CMS を再起動します。

⚠ 制限

過去の監査データは、Microsoft SQL Server 2008 Express データベースに格納されたままであり、このデータを Sybase SQL Anywhere に移行するツールは提供されていません。

A screenshot of a 'Configuration' window for an 'ADS Database'. The window has a title bar and a close button. The main area is titled 'ADS Database' and contains several fields. 'Connection Name' is 'BI4_Audit_DSN'. 'Type' is 'SQL Anywhere' with a dropdown arrow. 'Use Windows Authentication' is an unchecked checkbox. 'User Name' is 'dba'. 'Password' is masked with dots. 'Delete Events Older Than (Days)' is '36500'. At the bottom, there is a checked checkbox for 'ADS Auto Reconnect'.

CMC 監査設定 (英語の例)

テストが問題なく完了したら、バンドルされた Microsoft SQL Server 2008 Express を完全に削除できます。
Microsoft SQL Server 2008 Express を削除するに進んでください。

7.1.3 Microsoft SQL Server 2008 Express を削除する

⚠ 警告

この手順では、Microsoft SQL Server 2008 Express のインストールが削除されます。続行する前に、すべてのデータをバックアップしており、Sybase SQL Anywhere を含む BI プラットフォームデプロイメントのテストを行っていることを確認してください。CMS および監査データベースファイル(.db)は、`BIP_INSTALL_DIR¥sqlanywhere¥database.backup.DATE¥`に残ります。

1. コマンドプロンプトを開き、`setup.exe` プログラムを含むフォルダに移動します。
デフォルトでは、このフォルダは `<INSTALLDIR>` です。
2. 次のコマンドを実行します。

```
setup.exe -q -i product.businessobjects64-4.0-core-32 RemoveIDB=1  
MaintenanceMode=modify
```

または

```
setup.exe -q -i product.businessobjects64-4.1-core-32 RemoveIDB=1  
MaintenanceMode=modify
```

データベースサーバがシステムからアンインストールされます。

7.2 IBM DB2 Workgroup Edition から

7.2.1 4.3 インストールを変更し、SQL Anywhere を追加する (UNIX)

このタスクは、4.3 アップデートインストールプログラムを使用して 4.0、4.1、または 4.2 インストールの更新が完了しており、バンドルされた IBM DB2 Workgroup Edition を CMS および監査データベース用に引き続き使用していることを前提としています。

BI プラットフォームサーバインストールが 4.3 レベルになったら、Sybase SQL Anywhere のバンドルされたデータベースをインストールに追加します。

① 注記

インストールを変更するためには、CMS を実行する必要があります。

1. `<INSTALLDIR>` フォルダにディレクトリを移動し、次のコマンドを実行します。

```
./modifyOrRemoveProducts.sh
```

2. **追加または削除する製品の選択**ページで、BI プラットフォームインストールのベースレベルを選択して **Enter** を押します。
4.0、4.1、または 4.2 インストールを 4.3 に更新したため、更新ではなく、ベースの 4.0、4.1、または 4.2 完全インストールの変更を選択する必要があります。
3. **アプリケーションのメンテナンス**ページで、**変更**を選択して **Enter** を押します。
4. **言語パックの選択**ページで、**Enter** を押して続行します。
5. **機能の選択**ページで、**Sybase SQL Anywhere データベース** (▶ **サーバ** ▶ **プラットフォームサービス** ▶ の下) を選択し、**Enter** をクリックして変更を適用します。
6. **[Sybase SQL Anywhere の設定]** ページで、新しいデータベースサーバのアカウントパスワードおよびポート情報を選択します。

データベースアカウントパスワードは、後で CMS データのコピー時に入力する必要があります。受信データベースクエリをリスニングする Sybase SQL Anywhere のデフォルトポートは、2638 です。データベースがこのポートまたは指定したカスタムポートで受信接続を受信できる必要があるため、ファイアウォールが正しく設定されていることを確認してください。

[インストールの開始] ページが表示されます。インストールを開始します。

インストールの完了後、バンドルされた Sybase SQL Anywhere データベースがマシンにインストールされます。IBM DB2 Workgroup Edition データベースサーバが、引き続きすべての既存データを含むアクティブな CMS および監査データベースです。CMS データベースを SQL Anywhere にコピーする (UNIX)に進んでください。

7.2.2 CMS データを SQL Anywhere にコピーする (UNIX)

⚠ 警告

データをコピーする前に、既存 CMS データベースのバックアップなどの準備ステップを実行することが推奨されます。詳細については、*Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドの「CMS システムデータベースのコピーの準備」を参照してください。

CMS データベースのコンテンツをコピーする前に、4.3 アップデートインストールプログラムで設定したアカウントを使用して、出力先 SQL Anywhere データベースにログオンできることを確認してください。

cmsdbsetup.sh スクリプトを使用して、CMS データを IBM DB2 Workgroup Edition から Sybase SQL Anywhere にコピーします。この手順で使用される以下のデータベース情報を確認してください。

オプション	DB2 (ソース)	SQL Anywhere (出力先)
CMS ODBC データソース名 (DSN)	BOE14	BI4_CMS_DSN<Unix timestamp>
データベースアカウント	(空白)	dba
データベースアカウントパスワード	(空白)	4.3 変更インストールプロセスで指定
クラスタキー	4.0、4.1、または 4.2 インストールプロセスで指定	4.0、4.1、または 4.2 インストールプロセスで指定

SQL Anywhere CMS DSN では、名前 BI4_CMS_DSN の末尾に UNIX タイムスタンプが付けられます。たとえば、BI4_CMS_DSN1369176900 のようになります。正確な DSN については、ODBC システムファイル (例: <INSTALLDIR>/sap_bobj/enterprise_xi40/odbc.ini) を参照してください。

1. `<INSTALLDIR>/sap_bobj` に移動し、IBM DB2 Workgroup Edition (コピー元) と Sybase SQL Anywhere (コピー先) の各データベースサーバを起動します。

```
./db2startup.sh
./sqlanywhere_startup.sh
```

2. CCM を使用して Server Intelligence Agent (SIA) を停止します。

```
./ccm.sh -stop <nodename>
```

3. `./cmsdbsetup.sh` を実行し、SIA ノードの名前を指定して、`[Enter]` を押します。

[BOE14](#) の現在の CMS データソースが表示される必要があります (IBM DB2 Workgroup Edition の ODBC DSN)。すべてのノード名のリストを表示するには、`<INSTALLDIR>/sap_bobj/serverconfig.sh` を実行して、オプション `[8]` を入力します。

4. `[4]` を入力し、[コピー](#) オプションを選択して、`[Enter]` を押します。
5. `[3]` を入力し、[はい](#) オプションを選択して続行し、`[Enter]` を押します。
6. `[2]` を入力し、[いいえ](#) オプションを選択して、`[Enter]` を押します。

現在の BOE14 ODBC DSN (IBM DB2 Workgroup Edition) は、出力先ソースとして使用しません。出力先ソースは SQL Anywhere にする必要があります。

7. `[2]` を入力し、[SQLAnywhere](#) を選択して、コピー先の CMS データベース (Sybase SQL Anywhere) の接続の詳細を入力します。
 - a. Sybase SQL Anywhere ODBC DSN として `BI4_CMS_DSN<Unix timestamp>` を入力し、`[Enter]` を押します。
 - b. ユーザ名として `dba` を入力し、`[Enter]` を押します。
 - c. “dba” 管理者アカウントのパスワードを入力し、`[Enter]` を押します。
 - d. クラスターキーを入力し、[Enter](#) キーを押します。
8. `[6]` を入力し、[DB2](#) を選択して、コピー元の CMS データベース (IBM DB2 Workgroup Edition) の接続の詳細を入力します。
 - a. IBM DB2 Workgroup Edition ODBC DSN として `BOE14` (デフォルト値) を入力し、`[Enter]` を押します。
 - b. データベース管理者アカウントのユーザ名を空白のままにし、[Enter](#) キーを押します。
 - c. データベース管理者アカウントのパスワードを空白のままにし、[Enter](#) キーを押します。
 - d. クラスターキーを入力し、[Enter](#) を押します。

コピー手順が完了すると、出力先データベースが CMS の現在のデータベースとして設定されます。SIA を再起動し、新しい Sybase SQL Anywhere CMS データベースを使用して 4.3 BI プラットフォームインストールをテストします。

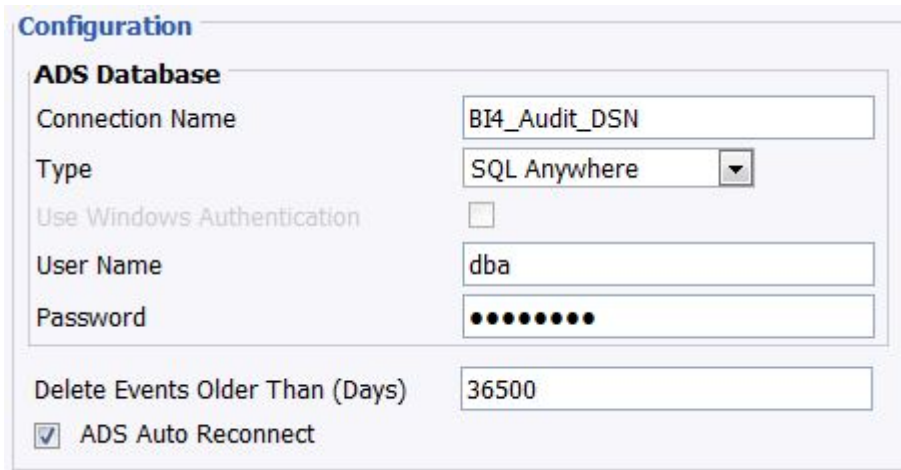
→ ヒント

現在の CMS データベースサーバの詳細を表示するには、`<INSTALLDIR>/sap_bobj/cmsdbsetup.sh` を実行して SIA ノードの名前を入力します。現在の CMS データソースが、次の画面で一覧表示されます。

また、新しいデータが Sybase SQL Anywhere に書き込まれるよう、監査データストア (ADS) を設定することもできます。セントラル管理コンソール (CMC) にログインし、[\[監査\]](#) ページで [\[設定\]](#) 見出しの下に Sybase SQL Anywhere ODBC DSN (`BI4_Audit_DSN`) およびアカウント詳細を入力します。[\[保存\]](#) をクリックし、CMS を再起動します。

⚠ 制限

過去の監査データは、IBM DB2 Workgroup Edition データベースに格納されたままであり、このデータを Sybase SQL Anywhere に移行するツールは提供されていません。



Configuration

ADS Database

Connection Name: BI4_Audit_DSN

Type: SQL Anywhere

Use Windows Authentication: ☐

User Name: dba

Password: ●●●●●●●●

Delete Events Older Than (Days): 36500

☒ ADS Auto Reconnect

CMC 監査設定 (英語の例)

テストが問題なく完了したら、バンドルされた IBM DB2 Workgroup Edition を完全に削除できます。IBM DB2 Workgroup Edition を削除するに進んでください。

7.2.3 IBM DB2 Workgroup Edition を削除する

⚠ 警告

この手順では、すべての CMS および監査データを含む IBM DB2 Workgroup Edition のインストールを削除します。続行する前に、すべてのデータをバックアップしており、SQL Anywhere を含む BI プラットフォームデプロイメントのテストを行っていることを確認してください。CMS および監査データベースファイル (.db) のバックアップは、<BIP_INSTALL_DIR>/sqlanywhere/database.backup.<DATE>/ に残ります。

1. コマンドプロンプトを開き、BI プラットフォーム setup.sh プログラムを含むフォルダに移動します。デフォルトでは、このフォルダは <<INSTALLDIR>> です。
2. 次のコマンドを実行します。

```
./setup.sh -q -i product.businessobjects64-4.0-core-32 RemoveIDB=1  
MaintenanceMode=modify
```

または



```
./setup.sh -q -i product.businessobjects64-4.1-core-32 RemoveIDB=1  
MaintenanceMode=modify
```

データベースサーバがシステムからアンインストールされます。

重要免責事項および法的情報

ハイパーリンク

リンクの一部は、アイコンやマウスオーバーテキストで分類されています。これらのリンクから、追加の情報を得ることができます。アイコンについて。

-  このアイコンが付いたリンク: SAP がホストしているものではない Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り) 以下のことに同意することになります。
 - リンク先のサイトのコンテンツが SAP のドキュメンテーションではないこと。お客様は、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできません。
 - SAP が、リンク先のサイトのコンテンツについて同意することも反対することもなく、また SAP がその利用可能性や正確性について保証しないこと。SAP は、かかるコンテンツの使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。
-  このアイコンが付いたリンク: 当該の特定の SAP 製品又はサービスのドキュメンテーションから離れ、SAP がホストしている Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り)、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできないことに同意します。

外部プラットフォームでホストされているビデオ

一部のビデオは、サードパーティのビデオホスティングプラットフォームに置かれている場合があります。SAP では、これらのプラットフォームに保存されているビデオが将来にわたって利用できると保証することはできません。また、これらのプラットフォームにホストされている、いかなる広告またはその他のコンテンツ (関連ビデオまたは同じサイトでホストされている別のビデオに移動する場合など) については、SAP の管理外であり責任を負いません。

ベータおよびその他の試験的機能

試験的機能は、SAP が将来のリリースを保証する正式に提供される機能の範囲外です。これは、試験的機能は、SAP により通知なく理由の如何を問わず随時変更される場合があることを意味します。試験的機能は、本稼働使用のためのものではありません。お客様は、試験的機能を実際の運用環境で、又は十分なバックアップがとられていないデータとともに、デモンストレーション、テスト、試験、評価その他の方法で使用してはなりません。

試験的機能の目的は、早期にフィードバックを得ることで、それに応じて顧客の皆様やパートナーが将来の製品に影響を与えることを可能にすることです。SAP コミュニティなどにおいてフィードバックを提供することで、お客様は、投稿物や二次的著作物の知的財産権が SAP の独占的所有物であり続けることを承認することになります。

コード例

ソフトウェアのコーディングやコードスニペットはすべて、例です。それらは、本稼働使用のためのものではありません。コード例は、構文や表現規則を分かりやすく説明し視覚化することのみを目的としています。SAP は、コード例の正確性や完全性について保証しません。SAP は、コード例の使用により発生した過誤や損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、損害に対して一切責任を負いません。

偏見のない表現

SAP は、ダイバーシティ & インクルージョンの文化を支持しています。SAP の文書では、可能な限り、文化、民族性、ジェンダー、および障がいの有無を問わず、すべての人々に対する偏見を伴わない表現を採用します。

© 2024 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱漏等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE（又は SAP の関連会社）の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他のすべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する詳細の情報や通知については、<https://www.sap.com/japan/about/legal/trademark.html> をご覧ください。